佐賀県文化財調査報告書第141集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　17

１９９９年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　17

１９９９年3月

佐賀県教育委員会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業等の施工に先立ち実施した、埋蔵文化財の確認調査の結果をまとめたものです。

本県には埋蔵文化財が多数存在しており、県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と農業等を営む方々の生活基盤を整備する事業との調整を図るため、文化財の確認調査と記録の保存を進めております。

今回、平成10年度農業基盤整備事業等施工予定地区について文化財確認調査を行った結果、旧石器時代から近世にわたる各時代の遺跡が確認され、ここにその成果の一端を紹介するものです。

本書が、文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

この調査にあたって、文化庁、九州農政局、県農林部、各市町村教育委員会・土地改良担当課並びに地元関係各位の深い御理解と御協力に対し、心からお礼申し上げます。

平成11年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長　川久保　善　明

例　　言

1．本書は、国庫補助を受け平成９年度に確認調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財調査報告書である。

2．調査は、市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行った。

3．トレンチ（試掘溝）位置図作成、遺構の実測、写真撮影は調査員が行った。

4．遺物の整理・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化財課（神埼事務所）で行った。

・遺物整理……田中ハルミ・中島美須三

・図面整理・遺物実測……江島美恵子・上瀧 光子・山口美佐子

・製図……三好 文子

5．本書の執筆は下記の分担で行った。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ……古川 直樹（佐賀県教育委員会）

Ⅲ－１・２……鶴田 浩二（上峰町教育委員会）

Ⅲ－３……宗像　剛（富士町教育委員会）

Ⅲ－４……楠本 正士（佐賀市教育委員会）

Ⅲ－５・６……三代 俊行（　　〃　　）

Ⅲ－７……松尾 法博（佐賀県教育委員会）

Ⅲ－８……岩永 雅彦（多久市教育委員会）

Ⅲ－９・10……西村 秀昭（江北町教育委員会）

Ⅲ－11……船井 向洋（伊万里市教育委員会）

Ⅲ－12……内田 孔明（唐津市教育委員会）

Ⅲ－13……藤井 浩司（肥前町教育委員会）

6．本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を記した。

7．挿図中の■は遺構・遺物が確認されたトレンチ、□は遺構・遺物が確認できなかったトレンチである。

8．本書Ⅱ平成９年度文化財確認調査の内容は、調査員から提出された調査結果報告をもとに編集者がまとめている。Ⅱの報告及びⅢの各担当者の原稿のうち「土壙」や「……跡」の表記等については統一を図り、また一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。

9．本書の編集は、古川が行った。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
1．平成10年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査 …… 1
（1）農業基盤整備事業等に係る協議 …… 1
（2）文化財確認調査 …… 1
（3）農業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議 …… 1
2．調査組織 …… 2

Ⅱ．平成９年度文化財確認調査の概要 …… 11
1．佐賀東部地区の調査 …… 11
（1）鳥栖市 …… 12
（2）中原町 …… 12
2．佐賀西部地区の調査 …… 15
（1）佐賀市 …… 15
（2）三日月町 …… 17
（3）その他の地区 …… 17
3．佐賀南部地区の調査 …… 25
4．佐賀北部地区の調査 …… 26
（1）浜玉町 …… 27
（2）厳木町 …… 27
（3）その他の地区 …… 33
5．佐賀上場地区の調査 …… 33
（1）唐津市 …… 33
（2）肥前町 …… 35

Ⅲ．平成９年度発掘調査の概要 …… 41
1．堤三本柳遺跡 …… 41
2．青柳古墳群 …… 43
3．貝野遺跡１区 …… 45
4．森田遺跡 …… 47
5．江頭遺跡９区 …… 49
6．東淵遺跡１区 …… 51
7．赤司遺跡 …… 53
8．八ツ溝遺跡 …… 58
9．馬場南遺跡 …… 60
10．団子前遺跡 …… 62
11．樽浦遺跡 …… 64
12．竹木場丹ノ木遺跡 …… 66
13．納所笹山遺跡 …… 68

Ⅳ．まとめ …… 70

Ⅴ．資　料 …… 72
1．農林業基盤整備事業等に係る文化財調査の進め方 …… 72
2．確認調査実施要領（平成９年度） …… 73
3．平成10年度農林業基盤整備事業等に係る文化財調査一覧表（第２回協議会資料） …… 75

挿図目次

図１　平成９年度農業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図 …… ５～６
図２　佐賀東部地区周辺地形図 …… 11
図３　鳥栖市林道九千部山横断線トレンチ配置図 …… 13
図４　中原町林道九千部山横断線トレンチ配置図 …… 14
図５　佐賀西部地区周辺地形図 …… 16
図６　佐賀市鍋島地区トレンチ配置図 …… 18
図７　佐賀市金立東部地区トレンチ配置図① …… 19
図８　佐賀市金立東部地区トレンチ配置図② …… 20
図９　佐賀市兵庫北部地区トレンチ配置図① …… 21
図10　佐賀市兵庫北部地区トレンチ配置図② …… 22
図11　三日月町西部導水路トレンチ配置図 …… 24
図12　佐賀南部地区周辺地形図 …… 25
図13　佐賀北部地区周辺地形図 …… 26
図14　浜玉町大岩工区トレンチ配置図 …… 28
図15　浜玉町上川原工区トレンチ配置図 …… 29
図16　厳木町炭窯周辺地形図 …… 30
図17　厳木町炭窯（１号）実測図 …… 31
図18　厳木町炭窯（２号）実測図 …… 32
図19　佐賀上場地区周辺地形図 …… 34
図20　唐津市上場Ⅱ期地区（竹木場地区）トレンチ配置図 …… 36
図21　唐津市上場Ⅱ期地区（菅牟田地区）トレンチ配置図 …… 37
図22　唐津市東部地区（柏崎地区）トレンチ配置図 …… 39
図23　肥前町上場Ⅲ期地区（寺浦支線19号）トレンチ配置図① …… 40
図24　肥前町上場Ⅲ期地区（寺浦支線19号）トレンチ配置図② …… 40
図25　堤三本柳遺跡位置図 …… 41
図26　青柳古墳群位置図 …… 43
図27　貝野遺跡１区位置図 …… 45
図28　森田遺跡位置図 …… 47
図29　江頭遺跡９区位置図 …… 49
図30　東淵遺跡１区位置図 …… 51
図31　赤司遺跡位置図 …… 53

図32　赤司遺跡遺構配置図 …… 56～57
図33　八ツ溝遺跡位置図 …… 58
図34　馬場南遺跡位置図 …… 60
図35　団子前遺跡位置図 …… 62
図36　樽浦遺跡位置図 …… 64
図37　竹木場丹ノ木遺跡位置図 …… 66
図38　納所笹山遺跡位置図 …… 68

写真図版目次

図版１　堤三本柳遺跡 …… 42
図版２　青柳古墳群 …… 44
図版３　貝野遺跡１区 …… 46
図版４　森田遺跡 …… 48
図版５　江頭遺跡９区 …… 50
図版６　東淵遺跡１区 …… 52
図版７　赤司遺跡 …… 54
図版８　赤司遺跡 …… 56～57
図版９　八ツ溝遺跡 …… 59
図版10　馬場南遺跡 …… 61
図版11　団子前遺跡 …… 63
図版12　樽浦遺跡 …… 65
図版13　竹木場丹ノ木遺跡 …… 67
図版14　納所笹山遺跡 …… 69

表 目 次

表１　農業基盤整備事業等施工予定地内文化財確認調査一覧表（平成９年度） …… ７～８
表２　平成９年度発掘調査遺跡一覧表 …… ９～10

Ⅰ．調査に至る経過

１．平成10年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査

（１）農業基盤整備事業等に係る協議

県農林部と教育委員会が昭和53年４月に締結し、昭和59年４月に一部改正した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、平成９年９月に平成10年度農業基盤整備事業施工計画について事業担当部局から文化財保護担当部局への協議が求められた。平成10年度工事地区のうち予備調査（分布・試掘・確認調査）の対象となった地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・中原町・東脊振村・脊振村・上峰町・神埼町・基山町・三瀬村）33.1ha、佐賀西部地区（佐賀市・川副町・東与賀町・大和町・三日月町・多久市・富士町・小城町）106.3ha、佐賀南部地区（鹿島市・武雄市・太良町・江北町・塩田町・山内町・北方町・嬉野町・大町町・有明町）120.1ha、佐賀北部地区（伊万里市・浜玉町・七山村・厳木町・相知町・北波多村・西有田町）71.4ha、佐賀上場地区（唐津市・肥前町・玄海町）13.2haの合計 344.1haである。施工主体は県農林部・農村農地整備局所管の県営、市町村所管の団体営事業等に区分される。また、九州農政局筑後川下流農業水利事務所の筑後川下流用水事業に伴う協議（佐賀市・大和町・川副町・神埼町・三日月町）、佐賀中部農地防災事業所の農業用水関係事業に伴う協議（佐賀市・川副町・東与賀町・三日月町）もなされた。

（２）文化財確認調査

協議した施工計画について現地踏査などの結果をもとに検討を行い、文化財確認調査が必要と認められた地区（表１）を決定した。これを受け、当該市町村の教育委員会・土地改良担当課、県農林部・農村農地整備局との第１回目の「平成10年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会」を県教育委員会が主催して、10月16日に開催し、文化財確認調査の時期などの円滑な実施について協議した。

文化財確認調査は、原則として稲刈り終了から麦の作付けまでの期間（10月下旬～12月上旬）までの間に行ったが、地区によっては上物の状況等により年度末までずれ込む箇所もあった。

確認調査は原則として、２×２ｍのトレンチ（試掘溝）を20ｍ間隔で基盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、範囲などを調査した。

（３）農業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議

確認調査によって明らかになった事業施工予定地区内の遺跡の広がりは、佐賀東部地区44,000㎡、佐賀西部地区12,700㎡、佐賀北部地区1,050㎡、佐賀上場地区24,740㎡の計82,490㎡であった。佐賀南部地区では遺跡は確認されなかった。

この調査結果を基に関係市町村教育委員会が主体となって個別協議が行われ、12月18日に第２回目の合同会議を開催し、平成10年度の事業計画と埋蔵文化財保護との調整がなされた。大方の市町村では、この会議において平成10年度工事施工分の保存・発掘調査面積の調整が整ったが、佐賀東部地区の鳥栖市・中原町、佐賀西部地区の佐賀市、佐賀上場地区の玄海町における事業の一部については、調整が10年度以降にずれ込んだ。このような経過を経て調整を行った結果、平成10年度工事施工分となった遺跡の大部分は盛土工法など設計変更によって保存することになり、残りの18,591.5㎡については平成10年度に発掘調査を実施して記録保存を図ることにしたが、唐津市分では、平成11年度以降に発掘調査を振り分ける措置も行った。

平成９年度に市町村教育委員会が実施した発掘調査（表２）は、平成８年度に同様な過程で確認調査を実施し、農業基盤整備事業等担当部局との協議を経て、記録保存で対応することになったものである。

2．調査組織

平成９年度

調査主体

佐賀県教育委員会

総括

局長　佛坂　勝男　県文化財課長

次長　深町　昌司　県文化財課長補佐　大橋　康二　県文化財課長補佐　田平　徳栄　県文化財課長補佐

庶務

岩瀬　茂生　県文化課庶務係長　　吉村　俊也　県文化課庶務係主事

久保　信行　県文化課庶務係主査　　富窪　道代　県文化課庶務係主事

調査

調査総括	西田　和己	県文化財課管理・指導班企画調整主査		船井　向洋	伊万里市教育委員会
	徳富　則久	県文化財課管理・指導班企画調整主査		山口　　亨	大和町教育委員会
調査主任	松尾　法博	県文化財課管理・指導班主査		宗像　　剛	富士町教育委員会
調査員	武谷　和彦	県文化財課管理・指導班文化財保護主事		太田　　睦	中原町教育委員会
	市川　浩文	県文化財課管理・指導班文化財保護主事		野田　桂子	中原町教育委員会
	古川　直樹	県文化財課管理・指導班指導主事		徳永　貞紹	三日月町教育委員会
	福田　義彦	佐賀市教育委員会		永田　稲男	三日月町教育委員会
	古賀　章彦	佐賀市教育委員会		中尾　修二	浜玉町教育委員会
	中野　　充	佐賀市教育委員会		藤井　浩司	肥前町教育委員会
	内田　孔明	唐津市教育委員会		宮崎　光明	西有田町教育委員会
	石橋　新次	鳥栖市教育委員会		西村　秀昭	江北町教育委員会

調査協力

佐賀市教育委員会	川副町教育委員会	三瀬村教育委員会
唐津市教育委員会	東与賀町教育委員会	基山町教育委員会
鳥栖市教育委員会	大和町教育委員会	中原町教育委員会
多久市教育委員会	富士町教育委員会	上峰町教育委員会
伊万里市教育委員会	神埼町教育委員会	小城町教育委員会
武雄市教育委員会	東脊振村教育委員会	三日月町教育委員会
鹿島市教育委員会	脊振村教育委員会	浜玉町教育委員会
七山村教育委員会	玄海町教育委員会	江北町教育委員会
嬉木町教育委員会	西有田町教育委員会	有明町教育委員会

相知町教育委員会	山内町教育委員会	太良町教育委員会
北波多村教育委員会	北方町教育委員会	塩田町教育委員会
肥前町教育委員会	大町町教育委員会	嬉野町教育委員会

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事業所
佐賀中部農林事務所
鳥栖農林事務所
武雄農林事務所
鹿島農林事務所
伊万里農林事務所
唐津農林事務所
各市町村土地改良担当課
地元各位

調査指導

下条　信行　愛媛大学教授

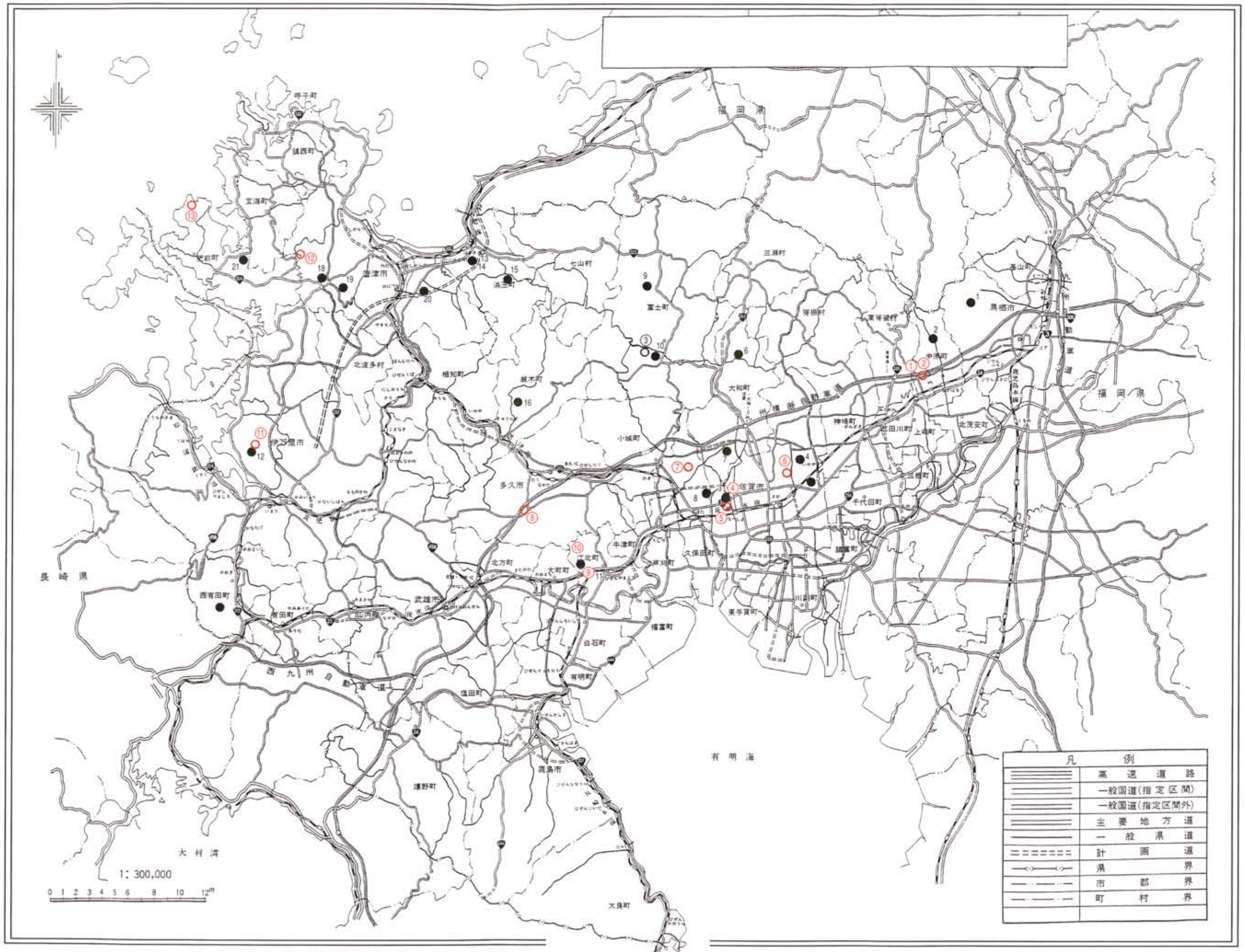


図1　平成9年度　農業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図

確認調査地区	**佐賀東部地区**
	1．鳥栖市（九千部山横断線）
	2．中原町（九千部山横断線）
	佐賀西部地区
	3．佐賀市（鍋島地区）
	4．〃（金立東部）
	5．〃（兵庫北部）
	6．大和町（松梅地区）
	7．〃（川上地区）
	8．三日月町（西部導水路）
	9．富士町（佐賀北部２期地区）
	10．〃（林道御民田線）
	佐賀南部地区
	11．江北町[江北地区(16号農道)]
	佐賀北部地区
	12．伊万里市（本瀬戸幹線道路）
	13．浜玉町[浜玉地区(大岩工区)]
	14．〃［〃（上川原工区）]
	15．〃［平原地区(座主工区)]
	16．厳木町（林道岩屋～栗ノ木線）
	17．西有田町（西有田西部地区）
	佐賀上場地区
	18．唐津市[上場Ⅱ期地区(竹木場地区)]
	19．〃［〃（菅牟田地区）]
	20．〃［唐津東部地区(柏崎地区)]
	21．肥前町[上場Ⅲ期地区(寺浦支線19号)]

発掘調査遺跡	①堤三本柳遺跡
	②青柳古墳群
	③貝野遺跡１区
	④森田遺跡
	⑤江頭遺跡９区
	⑥東潤遺跡１区
	⑦赤司遺跡
	⑧八ツ溝遺跡
	⑨馬場南遺跡
	⑩団子前遺跡
	⑪樽浦遺跡
	⑫竹木場丹ノ木遺跡
	⑬納所笹山遺跡

表１　農業基盤整備事業等施工予定地区内文化財確認調査一覧表（平成９年度）

地　区	市町村名	工事地区名	所　在　地	確認調査対象面積(ha)	調　査　結　果	担当者	備　考
佐賀東部	鳥栖市	九千部山横断	鳥栖市牛原町大字若林	3.2	中世山城	石橋	勝尾城下町遺跡
	中原町	九千部山横断	中原町大字原古賀	1.2	平安時代祭祀遺構・中世山城	太田・野田	鷹取山城跡
佐賀西部	佐賀市	鍋島	佐賀市鍋島町大字森田	27.4	中世～近世集落	古賀	森田遺跡ほか
		金立東部	佐賀市金立町大字薬師丸	23.3	弥生時代～中世集落	中野	上九郎遺跡
		兵庫北部	佐賀市兵庫町大字若宮	20.5	弥生時代～中世集落	松尾	若宮遺跡
	大和町	松梅	大和町大字松梅	8.7	遺跡は確認されなかった	山口	
		川上	大和町大字川上	0.1	遺跡は確認されなかった	山口	
	三日月町	西部導水	三日月町大字長神田・久米	0.5	弥生時代～中世集落	徳永・永田	赤司東遺跡ほか
	富士町	佐賀北部	富士町大字大串	4.2	遺跡は確認されなかった	宗像・武谷	八龍遺跡
		御民田線（林道）	富士町大字古湯	5.2	遺跡は確認されなかった	宗像	貝野遺跡
佐賀南部	江北町	江北（農道）	江北町大字山口	1.6	遺跡は確認されなかった	西村	柳谷遺跡
佐賀北部	伊万里市	本瀬戸幹線道路	伊万里市木須町	2.0	遺跡は確認されなかった	船井	
	浜玉町	大岩	浜玉町大字横田下	2.9	弥生～古墳時代集落	中尾	大岩遺跡
		上川原	浜玉町大字平原	4.45	中世の遺物包含層	中尾	上川原遺跡
		座主	浜玉町大字平原	5.5	遺跡は確認されなかった	中尾	座主古墳群
	厳木町	岩詰～栗ノ木	厳木町大字平之	0.4	炭焼成窯	徳富・古川	
	西有田町	西有田西部	西有田町大木乙	12.4	遺跡は確認されなかった	宮崎	大鳥ヶ倉遺跡ほか
佐賀上場	唐津市	竹木場	唐津市竹木場	0.2	旧石器～縄文時代包含層	内田	竹木場丹ノ木遺跡
		菅牟田	唐津市菅牟田	6.4	旧石器～縄文時代包含層	内田	菅牟田西山遺跡
		唐津東部	唐津市柏崎	1.4	弥生～古墳時代集落	内田	柏崎遺跡ほか
	肥前町	寺浦支線19号	肥前町大字万賀里川・仁田野尾	2.0	旧石器～縄文時代包含層	藤井	八折遺跡

表２　平成９年度発掘調査遺跡一覧表

市町村名	遺跡名	略号	遺跡の所在地	調査面積	調査主体者	調査担当者	遺跡の内容	事業名
上峰町	堤三本柳遺跡	ＴＳＹ	上峰町大字堤字三本柳	2,500㎡	上峰町教育委員会	原田・鶴田	古墳時代墳墓、奈良時代の集落跡等	県営圃場整備
	青柳古墳群	ＡＯＹ	上峰町大字堤二本柳	5,000㎡			古墳時代墳墓群	県営圃場整備
富士町	貝野遺跡１区	ＫＮＯ	富士町大字古湯字御民田	119㎡	富士町教育委員会	宗　像	縄文時代包含層、中世集落跡	普通林道御民田線
佐賀市	森田遺跡	ＭＲＴ	佐賀市鍋島町大字森田	3,990㎡	佐賀市教育委員会	楠　本	弥生時代墳墓、中世後半～近世集落跡	県営圃場整備・国営幹線水路
	江頭遺跡９区	ＥＧＳ	佐賀市鍋島町大字森田	1,250㎡		三　代	鎌倉時代集落跡	県営圃場整備
	東淵遺跡１区	ＨＢＣ	佐賀市兵庫町大字渕	300㎡			中世集落跡	農地還元資源利活用
三日月町	赤司遺跡	ＡＫＺ	三日月町大字道辺字緑	500㎡	三日月町教育委員会	西田・松尾・古川	弥生時代～近世集落跡	佐賀西部導水路
多久市	八ッ溝遺跡	ＹＴＭ	多久市多久町字浦町他	2,500㎡	多久市教育委員会	岩　永	古墳時代集落跡	県営圃場整備
江北町	馬場南遺跡	ＢＢＳ	杵島郡江北町大字上小田字馬場南	5,800㎡	江北町教育委員会	西　村	弥生時代・中世・近世集落跡	中山間地域農村整備
	団子前遺跡	ＤＡＧ	杵島郡江北町大字上小田字団子前	100㎡			縄文時代～近世包含層	中山間地域農村整備
伊万里市	樽浦遺跡	ＴＡＲ	伊万里市木須町字樽浦	360㎡	伊万里市教育委員会	船　井	縄文時代早期後半包含層	伊万里市開拓建設
唐津市	竹木場丹ノ木遺跡	ＴＴＫ	唐津市竹木場字丹ノ木	500㎡	唐津市教育委員会	内　田	旧石器時代～弥生時代包含層	県営畑地帯総合整備
肥前町	納所笹山遺跡	ＳＳＹ	東松浦郡肥前町大字納所字笹山己	26㎡	肥前町教育委員会	藤　井	旧石器時代包含層	県営畑地帯総合整備

Ⅱ．平成９年度文化財確認調査の概要

１．佐賀東部地区の調査

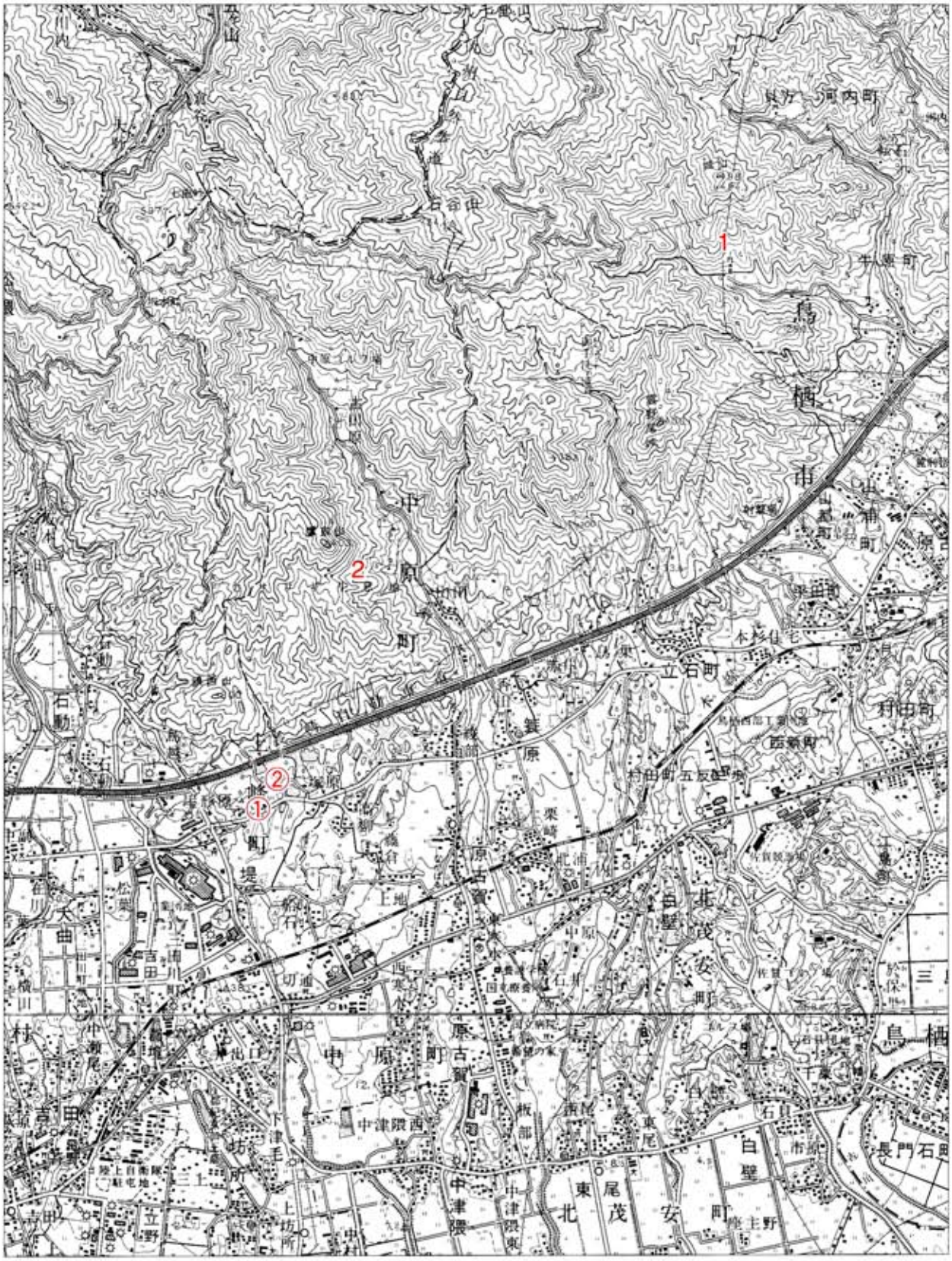


図２　佐賀東部地区周辺地形図（1:50,000）
１．鳥栖市（九千部山横断線）　①堤三本柳遺跡
２．中原町（九千部山横断線）　②青柳古墳群

（1）鳥栖市（広域基幹林道九千部山横断線）

広域基幹林道九千部山横断線（図3）の鳥栖市分については、計画当初から勝尾城跡との関係（保存整備・景観等）で文化財サイドからは問題になっていた。勝尾城の前面（東・南）を通るルートから背面（西）へのルート変更が無理であることから、工事着工の1～2年前に着工路線について個別に事前協議を行い、確認調査を実施し調整を図るという流れで、平成3年度より、鳥栖農林事務所、県文化財課、鳥栖市農林課、鳥栖市教育委員会の4者協議によって、調整を図ってきた。

今回の確認調査対象地は、城山（勝尾城本丸）南山麓の標高約280m前後付近で、比較的急傾斜な箇所約0.4haである。山頂が勝尾城本丸、約50m上に石垣つくりの出丸、山下には各氏の館があり、対象地は館と本丸を結ぶ勝尾城登城道の両側一帯である。館からは石垣列、焼けた土壁などとともに16世紀後半代の陶磁器が出土し、出丸には陶磁器片が散布している。

大手道を中心とする路線内の斜面に点々と見られる、小規模な平場（平均して幅2m～3m、長さ3m～5m）に10箇所のトレンチを設定し、人力による手掘りで遺構・遺物の検出を行った。その結果、2箇所のトレンチから明確な遺構を検出し、6箇所のトレンチから遺物が出土した。遺構は4号トレンチから石組みの竈跡1基（石は焼けており煤付着、炭化物等）、6号トレンチから深さ約20㎝、幅約70㎝の帯状の焼け面を検出したのみだが、トレンチを設定した平場は、総て人工的に削平された空間であることが判明した。遺物は、各トレンチから次のようなものが出土した。1号トレンチ（陶器～備前～）・5号トレンチ（不明鉄片1点，銅製飾り金具1点）・6号トレンチ（陶器～備前～，不明鉄片2点）・7号トレンチ（染付け椀1点）・9号トレンチ（土師器細片1点）・10号トレンチ（染付け皿1点）。他に1号トレンチ南で不明鉄片1点、染付け皿1点、備前陶器片1点、6号トレンチの北約30mから瓦質の鉢1点、10号トレンチの北から白磁の皿1点などを採集した。遺物の分布範囲が広範囲に及ぶことが明らかになるとともに、ほぼ満遍なく遺物が散布していることが予測される。

遺構・遺物の概要から、この地点が臨時的（戦闘時に機能する）な曲輪群であることが明らかになった。また、この臨時的曲輪は北50mほどに位置する石垣などをもつ本格的出曲輪から連続するものであることが確認され、しかも館から勝尾城本丸へ至る曲輪群の一部を構成することが今回の調査で判明した。

（2）中原町（広域基幹林道九千部山横断線）

広域基幹林道九千部山横断線（図4）開設事業に伴い、中原町大字原古賀字丸山で平成12年度工区分までの確認調査を実施した。本調査地区は中原町の北側鷹取山の中腹に位置し、標高200m～250mである。大半が急傾斜の斜面や深い谷となっているが、所々平坦部をもつ尾根が延びている。鷹取山の山頂は中世山城の鷹取山城である。山麓部には古墳が点々と見られるが、大規模な群集墳はない。

今回の調査地点では4箇所で遺跡が確認され、北から順に第1～4地点とすると、第1・2地点より古代（8世紀～9世紀）及び中世（室町時代～戦国時代）の遺跡が確認された。

第1地点は、幅15m程の尾根を削って長さ30m程の平坦面を作り出している。山側の斜面と平坦面との境付近には石を並べて区画施設を作っている。平坦面上にはさらに一段削られて作られた面があり、その上面から炭化物等を含む土壙が検出されている。遺物は須恵器や土師器などの土器が土壙内及び埋土中から多量に出土している。また平坦面から下の斜面上にも柱穴や土壙、テラスを作っており、テラス上から特に多く土器が出土している。

第2地点は、幅5m程の尾根を削って平坦面を作っている。斜面の途中には第1地点と同様な石列が見られ、

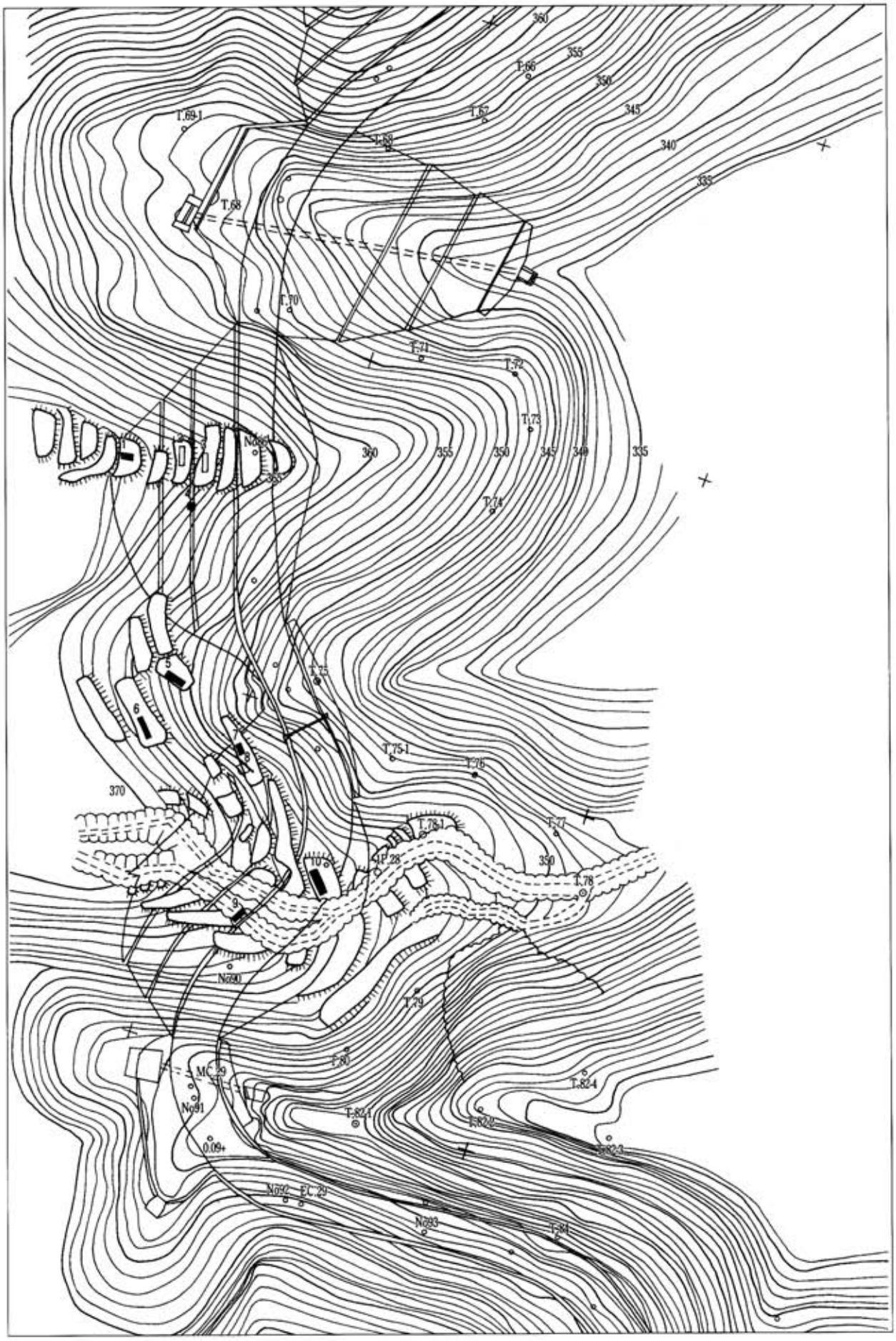


図3　鳥栖市林道九千部山横断線トレンチ配置図

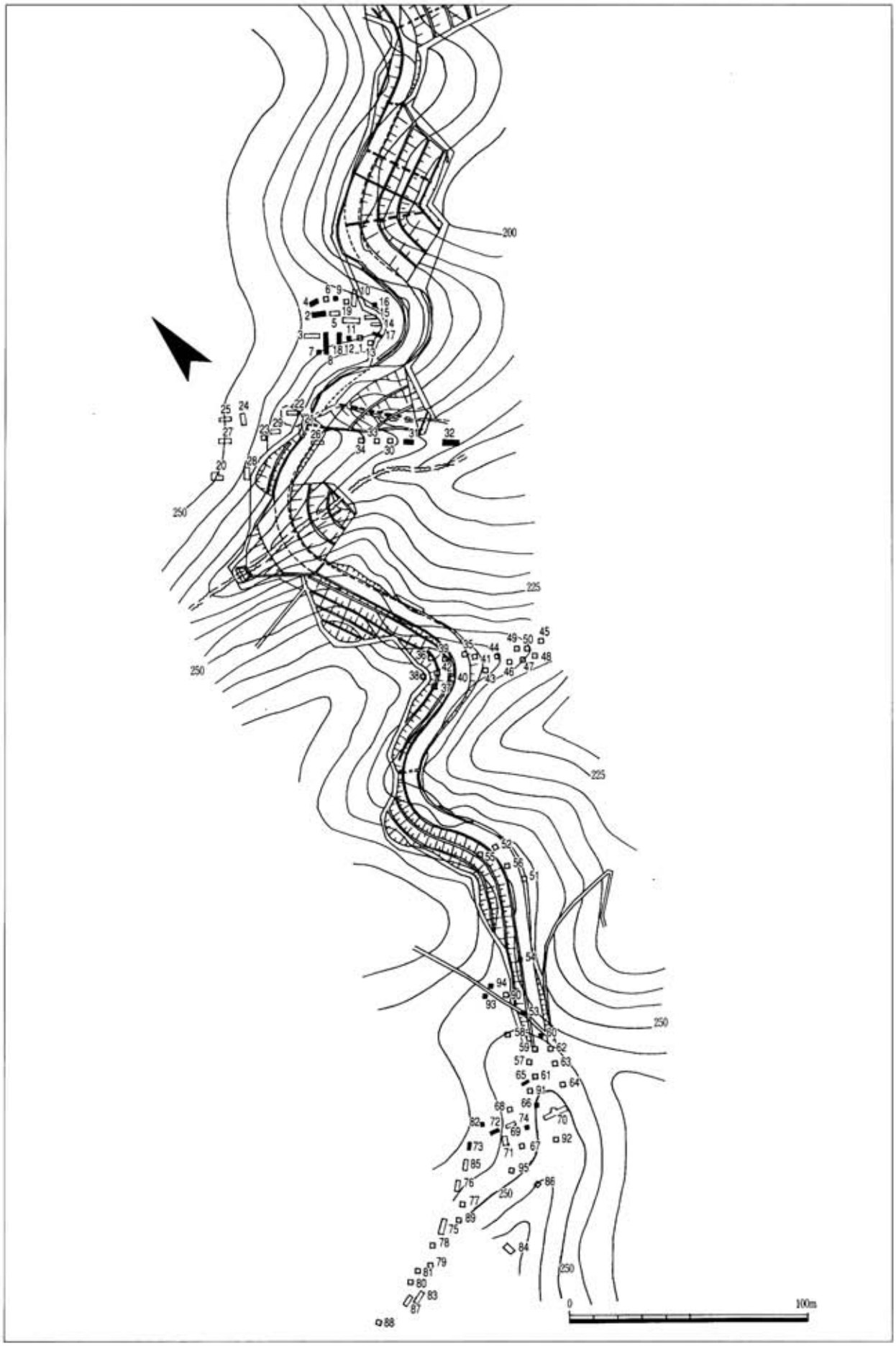


図４　中原町林道九千部山横断線トレンチ配置図

平坦面上には石で区画した中に完形の土器が置かれているのが発見された。ここから出土した土器の中には内面に煤が付着しているものがあり、灯明皿として使われたものと考えられる。

第３地点では斜面上に溝状の遺構が検出されたが、この溝が通路として利用されていたかは不明である。

第４地点では土塁及び通路状の盛土を検出し、尾根上には石積遺構や曲輪状の遺構が検出された。これらの時期については不明である。

今回発見された遺跡は、このような山中にあることから通常の集落とは考えにくく、なんらかの祭祀に関わる遺跡である可能性が高い。山中から祭祀に関わる遺跡が発見された例としては太宰府の宝満山や英彦山、求菩提山などがある。これらは、いずれも山岳宗教では有名な遺跡であり文献も数多く残されているが、これらの遺跡でも本格的な発掘調査が行われた例はなく、祭祀の実態はよくわかっていない。ましてや鷹取山遺跡のような文献に残らない地方における山中での祭祀行為が確認された例は少なく、全国的に見ても貴重な発見である。

２．佐賀西部地区の調査

（１）佐賀市（鍋島地区・金立東部地区・兵庫北部地区）

鍋島地区（図６）は、平成10年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市鍋島町大字森田の27.4haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は佐賀市と大和町・三日月町・久保田町との境界を流れる嘉瀬川の東岸に所在する圃場であり、現況田面の標高は3.5ｍ前後である。対象地の東半部は周知の埋蔵文化財包蔵地である森田遺跡の遺跡範囲に包含されているが、西半部は周知の埋蔵文化財包蔵地外となる。また調査地の周辺では、農業基盤整備事業の進展や大規模開発により遺跡の新発見が相次いでいる地域である。調査地の北側約１㎞には、細形銅剣や鋳型が出土したことで著名な鍋島本村南遺跡が存在する。また西側及び南側には、平安時代末～中世の遺跡である江頭遺跡・森田遺跡・大西屋敷遺跡が存在する。

調査は、調査対象地内における水路・道路建設予定部分を中心に167ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘削を行い実施した。また、必要に応じて人力によるトレンチ内の精査を行った。トレンチの位置は1000分の１の平面図に記録し、土層断面略図を作成、トレンチの状況を写真撮影した。

102・106・110・112・113・116・128トレンチで遺構を検出しており、調査対象地の南東部を中心に遺跡の広がりを確認している。検出遺構は井戸・土壙・小穴等であり、遺跡の性格としては集落跡と考えられる。遺物は、平安時代～室町時代にかけての土師器・瓦器・陶磁器が出土している。128トレンチ部分は未周知に当たるが、トレンチ内での遺構の検出状況や周辺でのトレンチの状況から判断して、遺跡は現在の江里の集落を中心として広がるものと考えられるため、江里遺跡として周知化した。

金立東部地区（図７・８）は、平成10年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市金立町大字薬師丸の23.3haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は佐賀市北東部の中間低地に立地し、標高は約４ｍである。巨勢川の東岸に相当し、周辺には水田が広がっている。調査地の北東には、弥生時代～近世の集落跡である下和泉一本椎遺跡が存在し、西側には縄文時代早期の集落跡が検出された、東名遺跡が存在する。

調査は、計画変更に伴い２度行った。１回目の調査は、調査対象地における水路部分を中心に34ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘削を行い実施した。また必要に応じて人力によるトレンチ内の精査を行った。

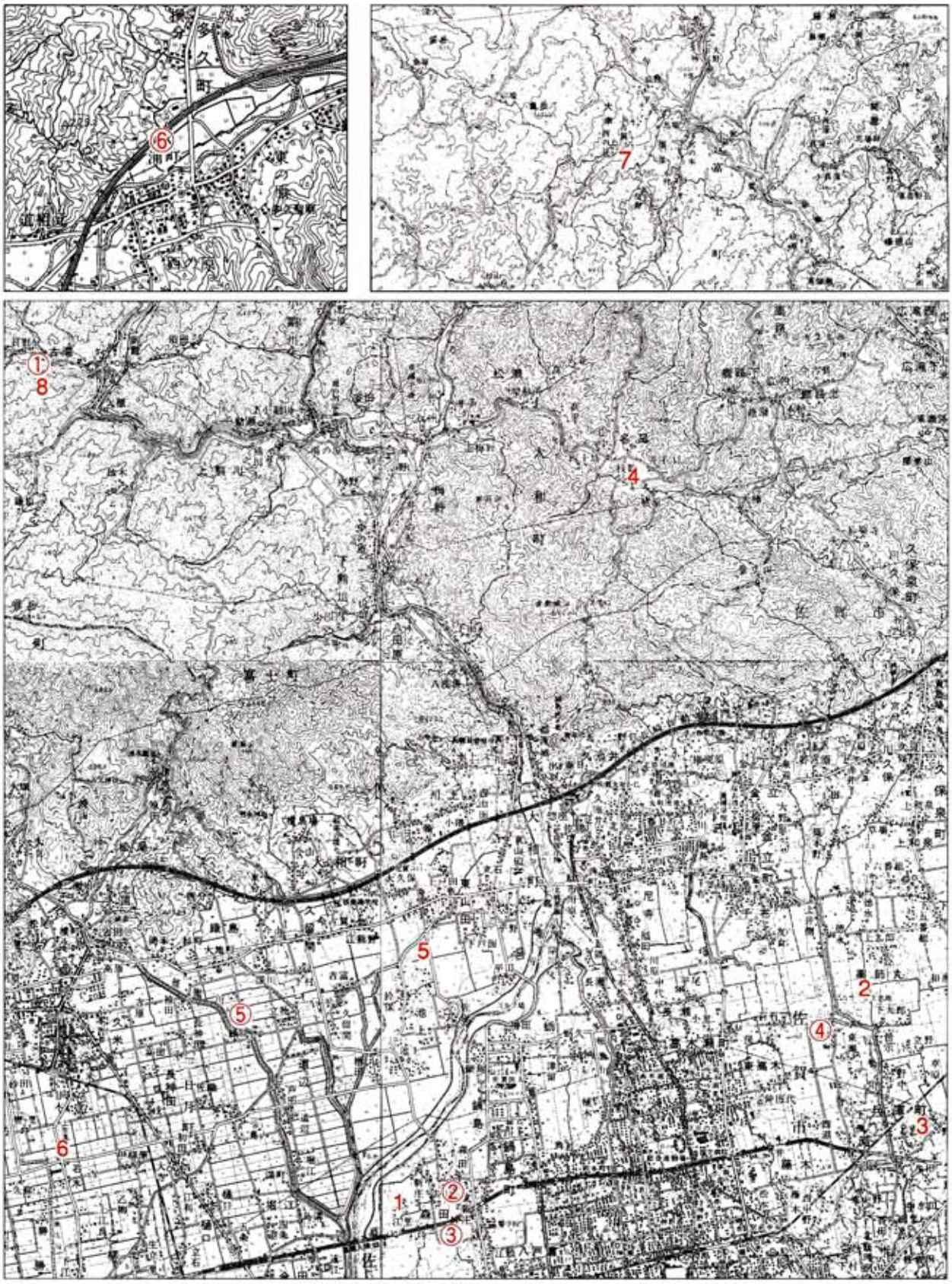


図５　佐賀西部地区周辺地形図（右上・下 1:100,000）（左上 1:50,000）

１．佐賀市（鍋島地区）	５．大和町　（川上地区）	①貝野遺跡１区	⑤赤司遺跡
２．　〃　（金立東部地区）	６．三日月町（西部導水路）	②森田遺跡	⑥八ッ溝遺跡
３．　〃　（兵庫北部地区）	７．富士町　（佐賀北部Ⅱ期地区）	③江頭遺跡９区	
４．大和町（松梅地区）	８．　〃　（林道御民田線）	④東淵遺跡１区	

第13トレンチで遺構を検出しており、調査対象地の中央部に新たな遺跡の広がりを確認している。検出遺構は、南北方向に流路をとる溝１条である。遺物は、弥生時代の壺および甕の破片が出土している。

２回目の調査では、調査対象地に任意に２ヶ所のトレンチを設定し、掘削を行った。遺構は検出されなかったが、前回調査で遺構を検出したトレンチに近接する第２トレンチから、古代～中世と思われる土師器皿片が出土した。

新たに確認した遺跡の広がりは、対象地の中央部を中心に約300㎡と考えられ、隣接する上九郎遺跡の範囲を拡大することで周知化した。

兵庫北部地区（図８・９）は、平成10年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市兵庫町大字若宮の20.5haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は市道伊賀屋線の北側で巨勢川の西側、ＪＲ長崎本線の南側の標高３～４ｍの水田地帯にあり、「若宮一」～「若宮三」の集落に隣接する。対象地の南側には、平成８年度に中世～近世の集落跡として周知化した若宮遺跡が存在する。南西約600ｍには、平成５年度の調査で弥生時代中期～後期の集落であることを確認した渕遺跡が所在する。調査では、井戸・溝・土壙などの遺構、甕・鉢・壺・高杯等を多量に検出している。

調査は、調査対象地内における水路・道路建設予定部分を中心にトレンチを設定し、掘削機による表土剥ぎを行い、人力で精査を行った。

9・10・13・18・20・21・22・36・53・68・69・72・74・83・84・86トレンチで遺構または遺物を検出した。検出遺構は、溝・土壙・柱穴（一部は、掘立柱建物跡と推定される）であり、遺物は、弥生土器・土師器・青磁・陶器・染付けなどの破片と鉄滓が出土している。

地元では「屋敷」の伝承があり、検出遺構や遺物から考えると、水路に囲まれた現在の集落および集落隣接の水田は、中世～近世の環濠集落の中心部であった可能性がある。

（２）三日月町（佐賀西部導水路）

三日月町は、佐賀西部導水事業（図11）に伴い、三日月町大字長神田・久米の約0.5haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、標高７～８ｍの複合扇状地と埋没段丘であり、西方に牛津江川はあるが地区内に目立った河川はない。周辺では、昭和46年に鉱害復旧事業に際し発見された国史跡の土生遺跡に隣接し、小城町側には同事業により調査が行われ、弥生時代の掘立柱建物跡や木製品を中心とした遺物が出土した久蘇遺跡が所在しており、対象地自体には土生Ａ遺跡と土生Ｂ遺跡が含まれる。

調査は、導水管埋設予定地を中心に37ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘り下げを行った。その結果、19，21，22，27，28，30，34～37トレンチで土壙・柱穴・小穴・不明遺構・遺物包含層を検出し、弥生土器片（中期）・黒曜石剥片・木杭・白磁碗Ⅳ類底部等が出土した。

今回の調査では、土生遺跡国指定地を中心に弥生時代の集落が広がることを確認し、県道42号線以東では、土生Ｃ遺跡の既調査区よりやや東で遺跡範囲の限界、県道以西で小城町境まで広がり、久蘇遺跡に続くことを確認した。

（３）その他の地区（大和町・富士町）

大和町は、県営中山間地域総合整備事業に伴う、大和町大字松梅の8.7ha、また農業生産体制強化総合推進対

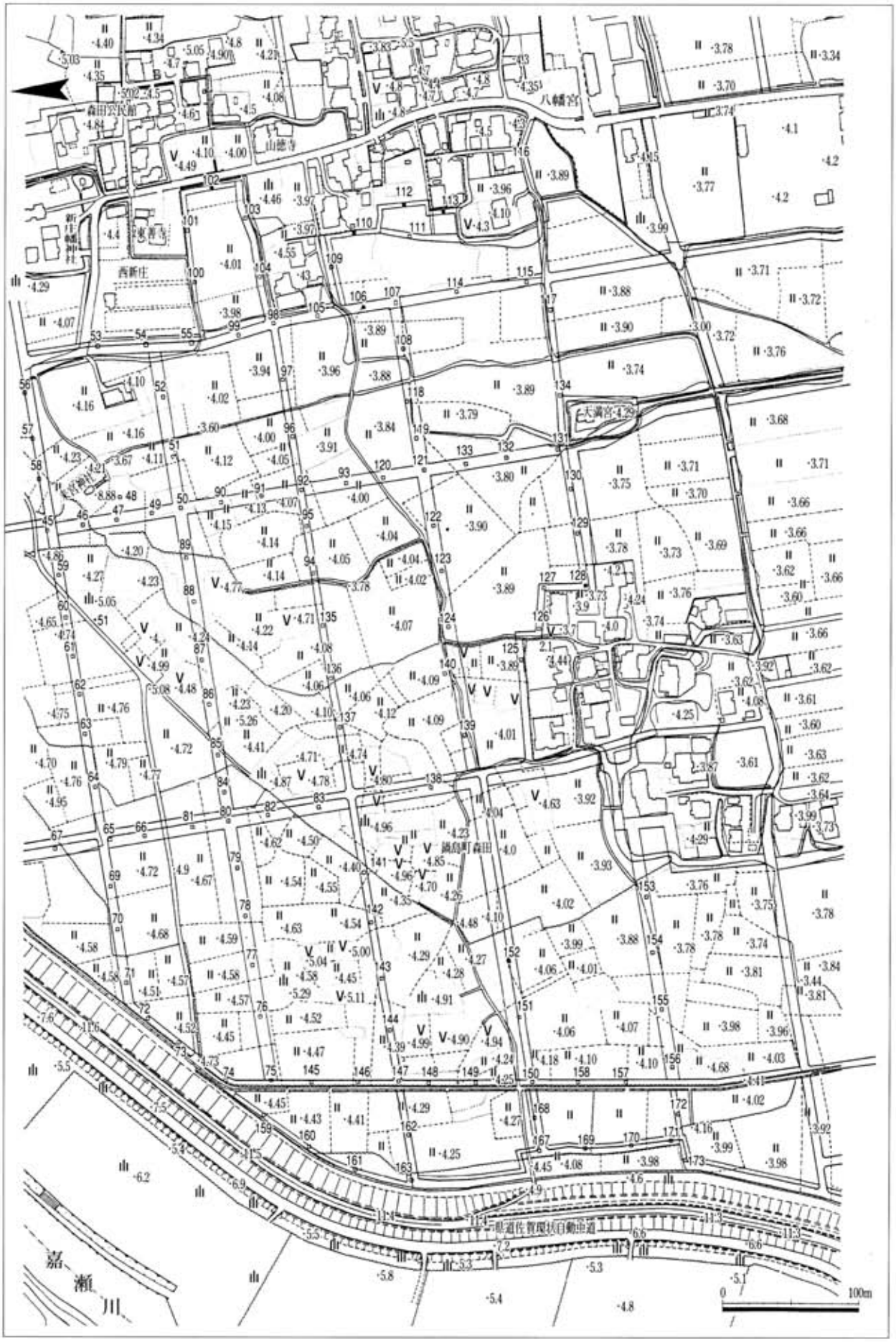


図６　佐賀市鍋島地区トレンチ配置図

図7　佐賀市金立東部地区トレンチ配置図①

図８　佐賀市金立東部地区トレンチ配置図②

図9　佐賀市兵庫北部地区トレンチ配置図①

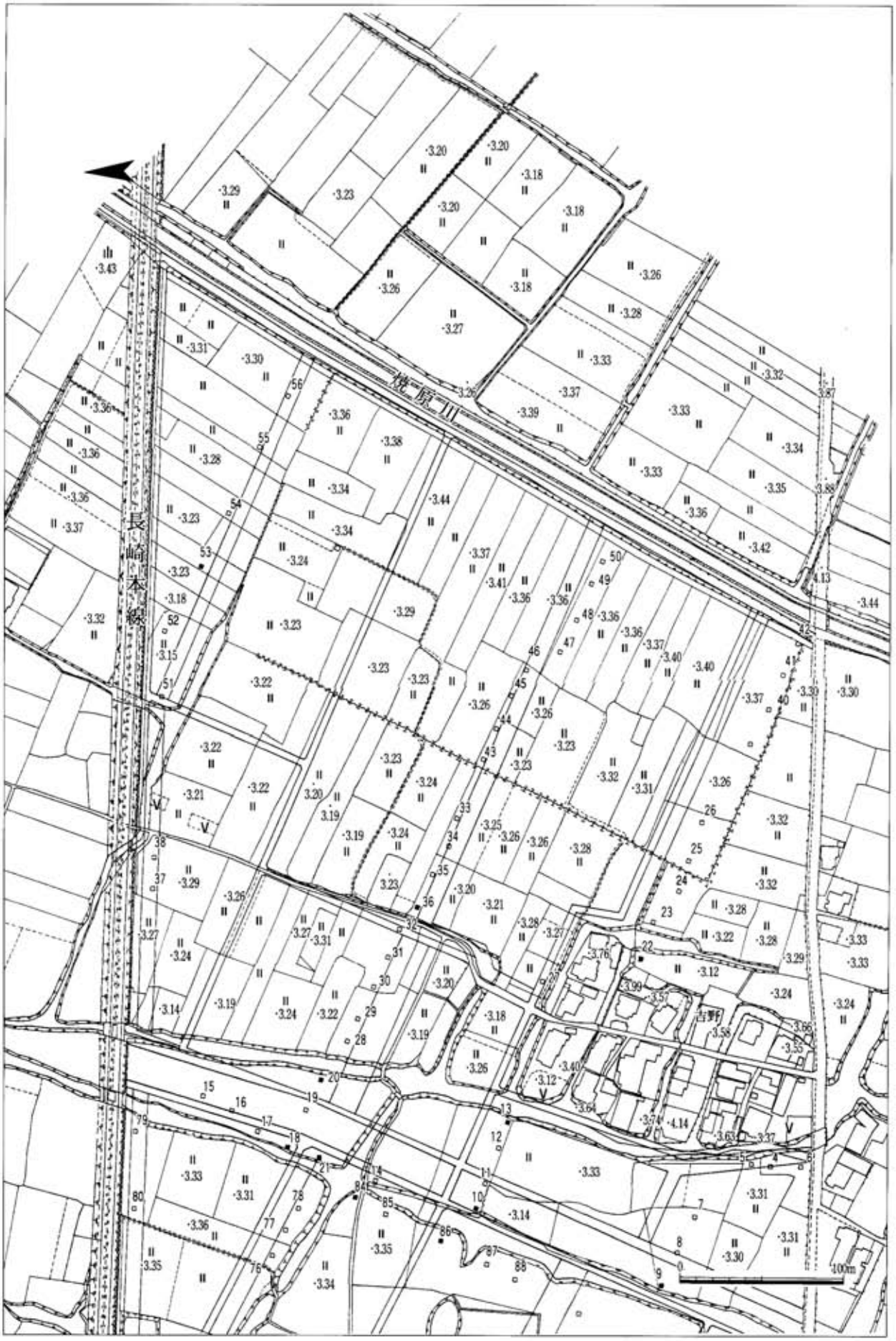


図10　佐賀市兵庫北部地区トレンチ配置図②

策事業に伴う、大和町大字川上の0.1haの２ヶ所を対象に確認調査を行った。

松梅地区調査対象地は、海抜140～150ｍ程の山間地の谷部の緩斜面を利用した段々の水田部に位置している。調査区北側には高城寺末寺の龍泉寺が、南斜面には蓮福寺があるが、未周知地区である。

調査は、調査区に任意で29ヶ所のトレンチを設定し掘削機により掘削を行った。遺構は、第23トレンチで石列（田園の畦・近世以降）が検出されたのみで、4，10，22，23トレンチから弥生土器小片・中近世の土師器小片が出土した。

弥生時代、中世、近世の遺跡が存在した可能性があるが、洪水等により破壊されたと考えられる。

川上地区調査対象地は、海抜10ｍ程の沖積平野の水田部に位置している。北東約500ｍに、弥生時代末～古墳時代初めの集落遺跡である榎木遺跡が所在し、南方約１㎞には、弥生時代前期末の甕棺墓遺跡、本村籠遺跡が所在する。

調査は、調査区に任意で５ヶ所のトレンチを設定し掘削機により掘削を行った。遺構は検出されなかったが、僅かに弥生時代中期の土器片の出土が認められるため、周辺に遺跡が存在するか、あるいは後世の開発等によって破壊されたと考えられる。

富士町は、広域営農団地整備事業（佐賀北部２期）に伴う、富士町大字大串の4.2ha、また普通林道御民田線開設事業に伴う、富士町大字古湯の5.2haを対象に確認調査を実施した。

大串地区の調査対象地は、北東方向に流れる大串川の左右河岸段丘上に設けられた標高340ｍ前後の棚田部に位置し、大串川の西岸部に、縄文時代の散布地である九郎遺跡が含まれる。

調査は、調査区内の路線予定地部を中心にトレンチを設定し、掘削機により17ヶ所、人力で２ヶ所の計19ヶ所を掘削し調査を行った。

遺構・遺物ともに検出されず、土層観察による盛土の検出状況等から、大規模な耕地整理により大きく削平されたと考えられる。

貝野地区の調査対象地は、東に流れる貝野川の南岸斜面に造られた棚田部に位置し、標高は270ｍ程である。縄文時代の散布地である貝野遺跡内にあり、周辺では北東500ｍに中世山城の古湯城跡、貝野川を東へ500ｍ下った所には縄文時代散布地の古湯五本松遺跡、さらに400ｍ下った所には縄文時代散布地の本村（古湯小学校）遺跡が所在する。

調査は、調査区内に任意で８ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘削を行った。本地区においても遺構・遺物はともに検出されず、設定したトレンチすべてにおいて盛土造成の状況が確認されたことから、大きく削平を受けたものと思われる。

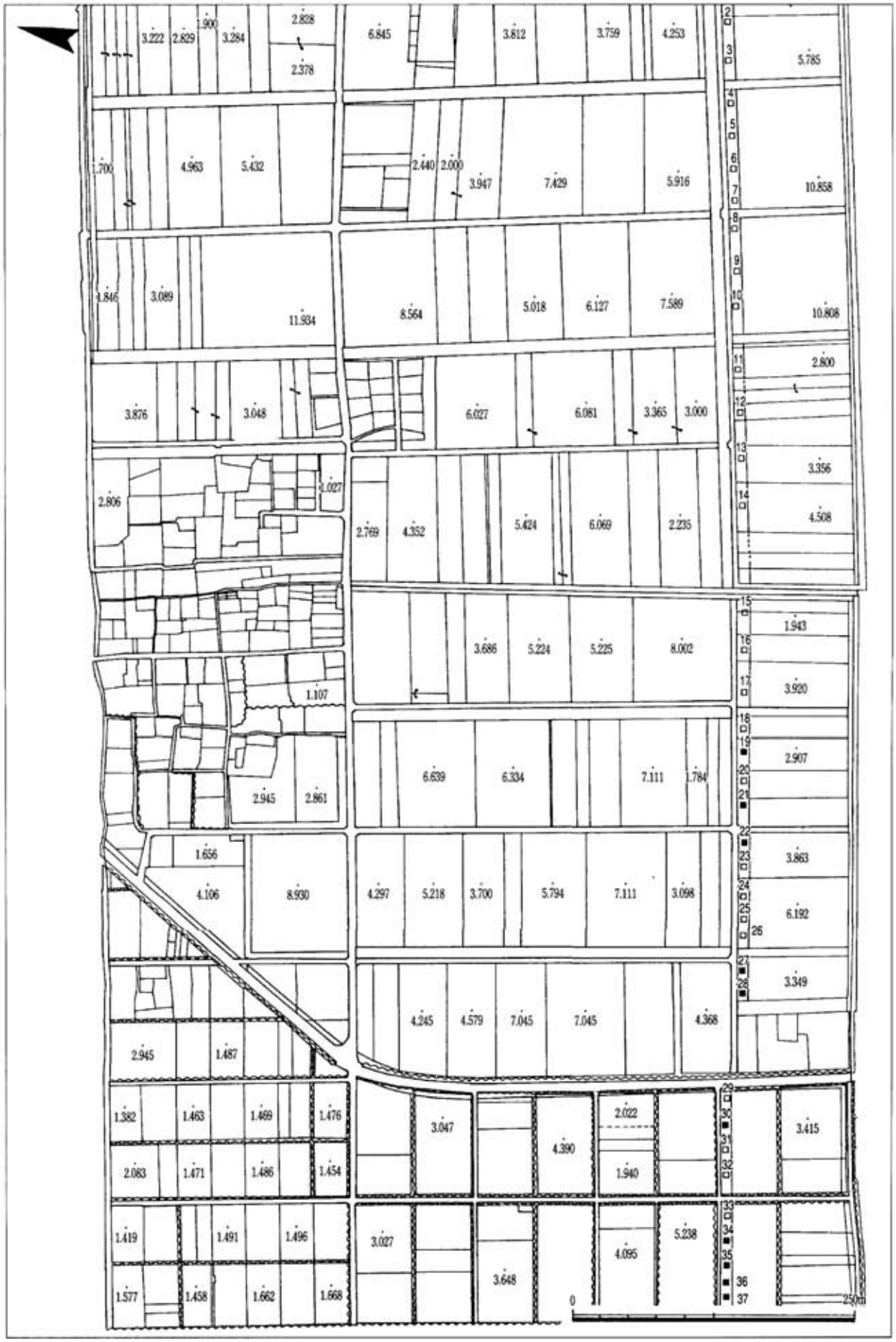


図11　三日月町西部導水路トレンチ配置図

3．佐賀南部地区の調査

江北町は、中山間地域総合整備事業（江北地区16号農道）に伴い、江北町大字山口の1.6haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、御岳山の南北方向に延びる尾根から谷部にかけての標高46m前後の緩斜面上に位置し、現況は蜜柑畑で、一部削平をうけているが旧地形を多く残している。対象地は、弥生時代の散布地である柳谷遺跡に含まれており、周辺には耳環・鉄刀を出土した柳谷古墳群、弥生時代～中世の散布地である田尻遺跡が所在する。

調査は、調査区内の路線予定地を中心に５ヶ所のトレンチを設定し、人力により掘削を行ったが、黒曜石片を数点表面採集しただけで、遺構は検出されなかった。

図12　佐賀南部地区周辺地形図（1:25,000）
1．江北町［江北地区（16号農道）］　①馬場南遺跡　②団子前遺跡

4．佐賀北部地区の調査

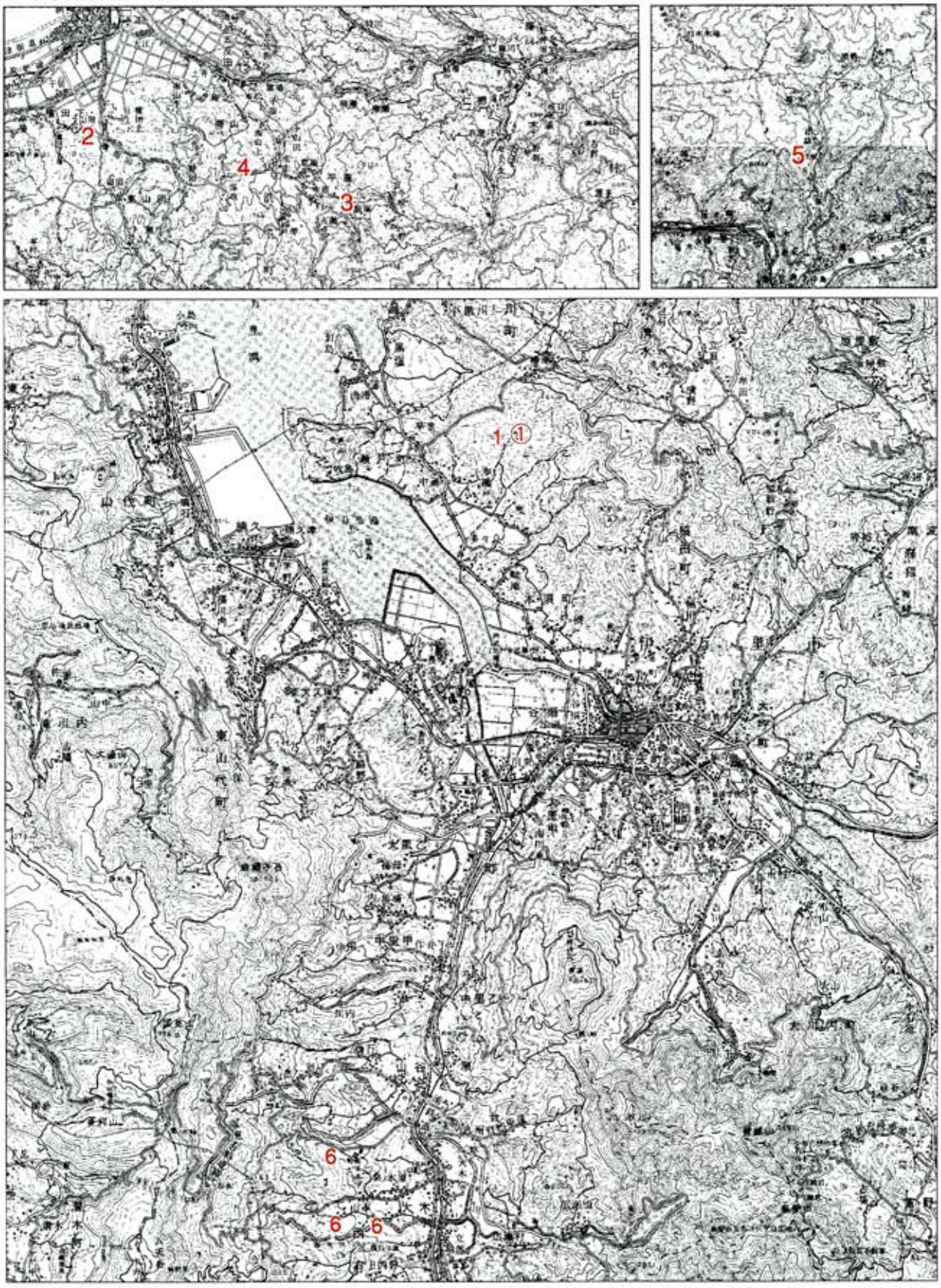


図13　佐賀北部地区周辺地形図（1:100,000）

1．伊万里市（本瀬戸幹線道路）
2．浜玉町　［浜玉地区（大岩工区）］
3．　〃　［浜玉地区（上川原工区）］
4．浜玉町［平原地区（座主工区）］
5．厳木町（林道岩詰～栗ノ木線）
6．西有田町（西有田西部地区）
①樽浦遺跡

（1）浜玉町［浜玉地区（大岩工区・上川原工区）・平原地区（座主工区）］

浜玉町は、農業生産体制強化総合推進対策事業に伴う、浜玉地区・大岩工区（図14）の浜玉町大字横田下の2.9ha及び上川原工区（図15）の浜玉町大字平原の4.45ha、りんごわい化栽培等緊急推進対策事業に伴う、浜玉町大字平原の5.5haを対象に、確認調査を行った。

大岩工区の調査対象地は、北へ向かって張り出した丘陵上とその西側の谷部に位置し、過去に大規模な蜜柑園造成が行われた箇所にあたる。周辺には数多くの遺跡が点在しており、調査地も大岩遺跡の範囲内である。調査地の西約500ｍには横田下古墳が位置している。

調査は、調査区内に任意で28ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘削を行った。第27,28トレンチで溝状の遺構を検出し、弥生時代後期～古墳時代前期にかけての、壺、甕の口縁部の破片が出土した。遺構が検出された部分を含む周辺約1,000㎡については、やや削平はうけているものの、旧地形が残っている。

上川原工区の調査対象地は、北へ向かって張り出した丘陵上とその東西の谷部に位置し、大岩工区同様の造成が施されている箇所である。調査地周辺に遺跡は少なく、北約700ｍに縄文時代の散布地である中原遺跡が所在している。

調査は、調査区内に任意で36ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘削を行った。第36トレンチで遺物包含層を検出したが、遺物の密度は非常に薄く、10～11世紀と思われる土師器皿片が数点出土しただけである。

平原地区の調査対象地は、北西に延びた丘陵から派生した、南東に向かう小丘陵の南斜面に位置し、過去に大規模な農地整備が行われている箇所である。隣接地には座主古墳群が所在する。

調査は、調査区内に任意で28ヶ所のトレンチを設定し、掘削機により掘削を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

（2）厳木町（林道岩詰～栗ノ木線）

厳木町は、普通林道開設事業（岩詰～栗ノ木線）に伴い、厳木町大字平之の500㎡を対象に確認調査を行った。

調査対象地は、厳木川の支流浦川内川が作る谷部の西岸、北から延びる丘陵に刻まれた谷部に位置する。標高は約260ｍの地点である。現況は山林で、谷底部には石垣による土留めで作り出した平坦面を利用した、戦時中の畑が幾段も見られる。県遺跡地図上では、北に約750ｍと南に約500ｍほどのそれぞれ緩やかな尾根上に坂口遺跡、柳ノ谷遺跡、詰原遺跡、柳遺跡などの旧石器時代の遺跡が所在するが、対象地付近には同時代の遺跡は所在しない。岩詰集落付近に、伝木下大膳・四方之丞墓、五輪塔さん墓地が知られている。

調査の対象となったのは、平成10年度工期分の路線予定地に踏査に向かう途中の、平成９年度工事予定地内で発見した近代の炭窯２基である。

調査は、炭窯の内部及び周辺の竹木の伐採・清掃後、周辺地形図作成、個別実測図作成、写真撮影を行った。検出された遺構は、炭窯２基、それに伴う炭貯蔵小屋が建っていた平地、作業空間等であり、遺物は、炭窯造成に使用したと思われるスコップ（不採取）、槙割りに使用した楔４点（採取）である。

１号窯（南側）と２号窯（北側）には、規模に若干の違いはあるものの構造的な差異はほとんど見受けられず、２号窯の方が若干時期的にも新しく、遺構の残存状況も良好である。窯は上部のあいたほぼ円筒状の形をしており、窯壁は焼けている。入り口部分は左右に設置した柱石の上に平石状の石を積み上げて高さを揃え、それに上石を置いたトンネル状に構築している。入り口対面の奥壁には、窯の床面より若干掘り込みを施し、上方に排煙するための筒状の通煙道を作っている。また窯の床から15～20㎝下のほぼ中央部分に、水抜きの竹を据えたと思

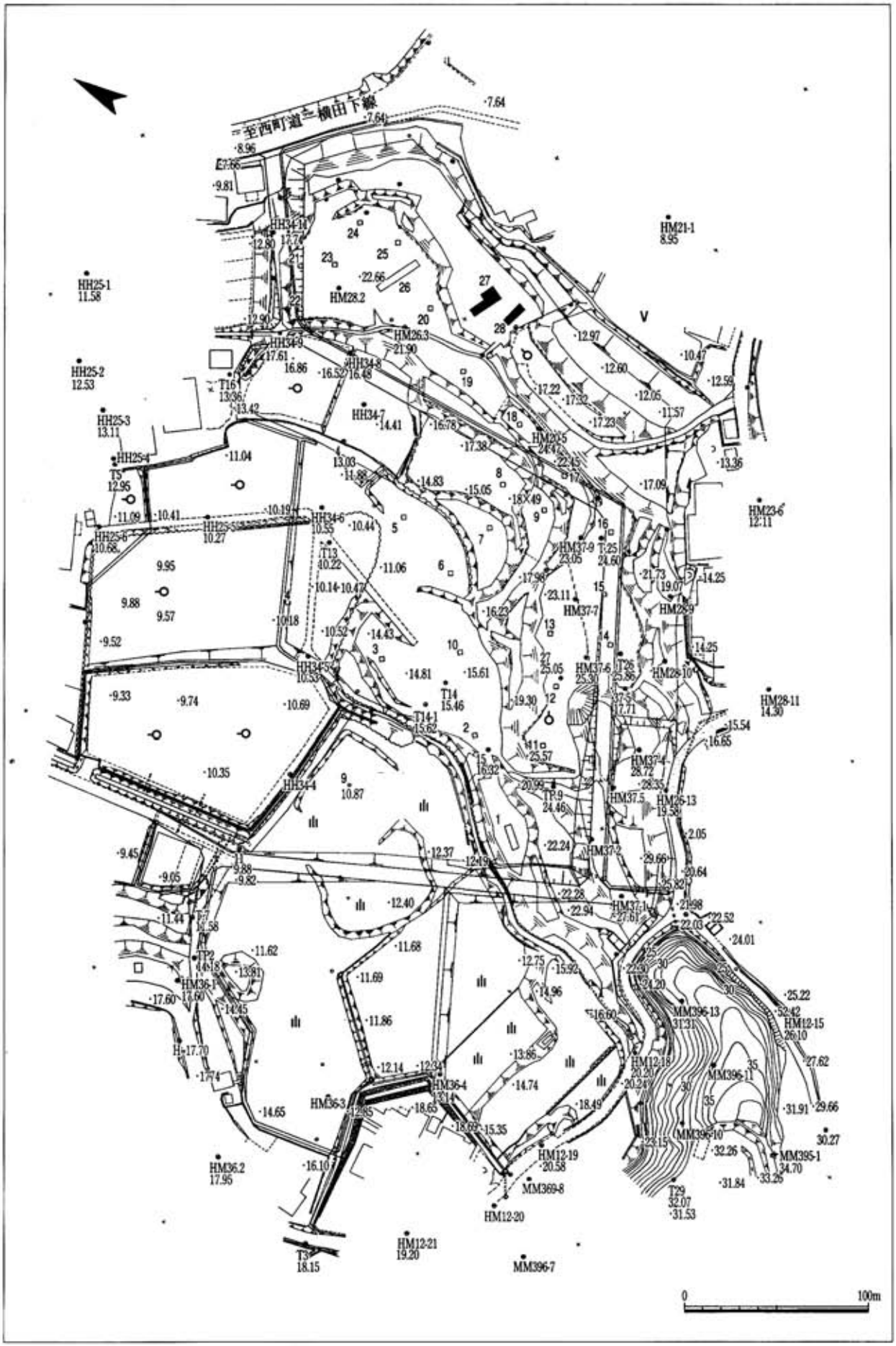


図14　浜玉町大岩工区トレンチ配置図

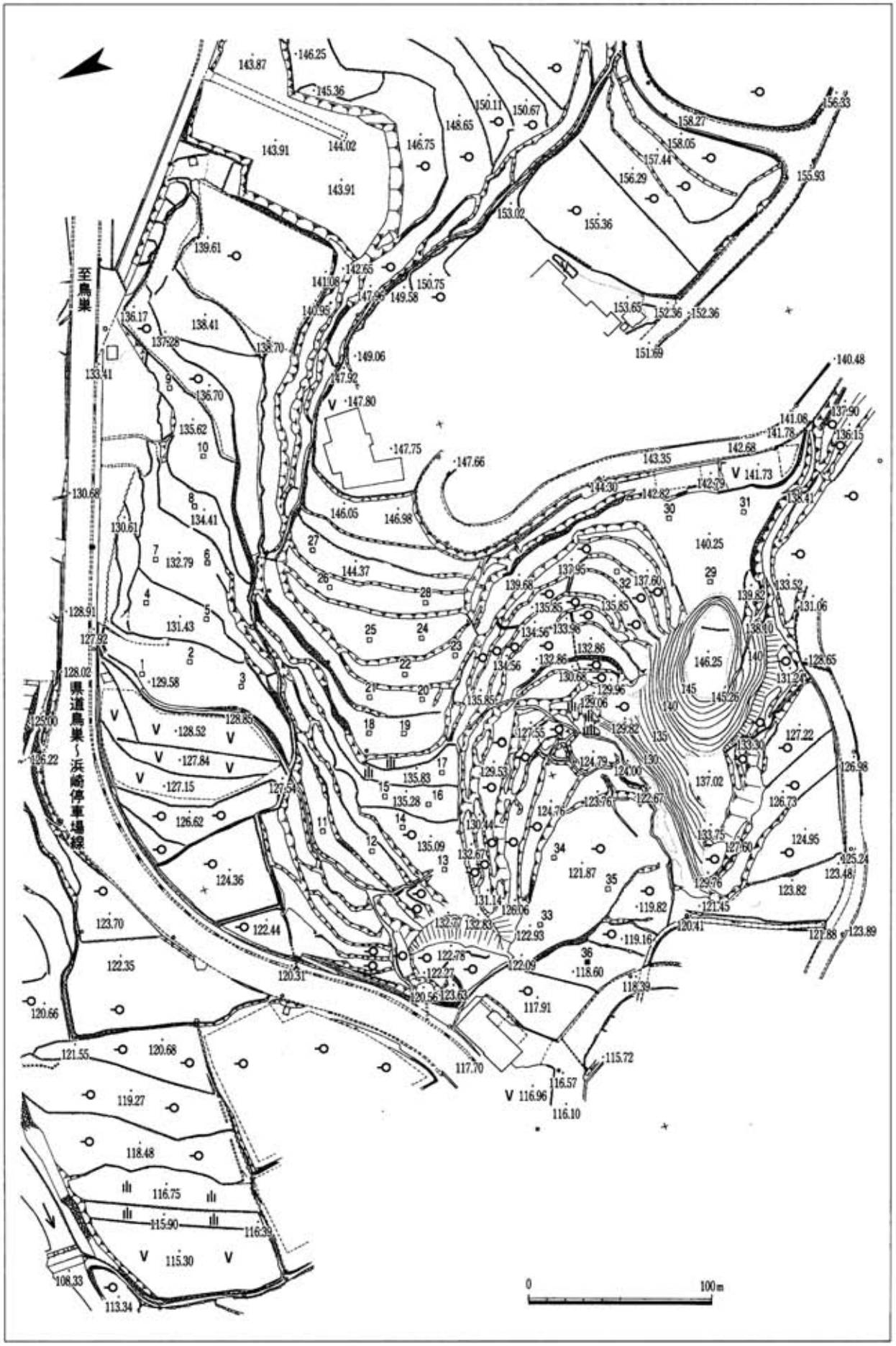


図15　浜玉町上川原工区トレンチ配置図

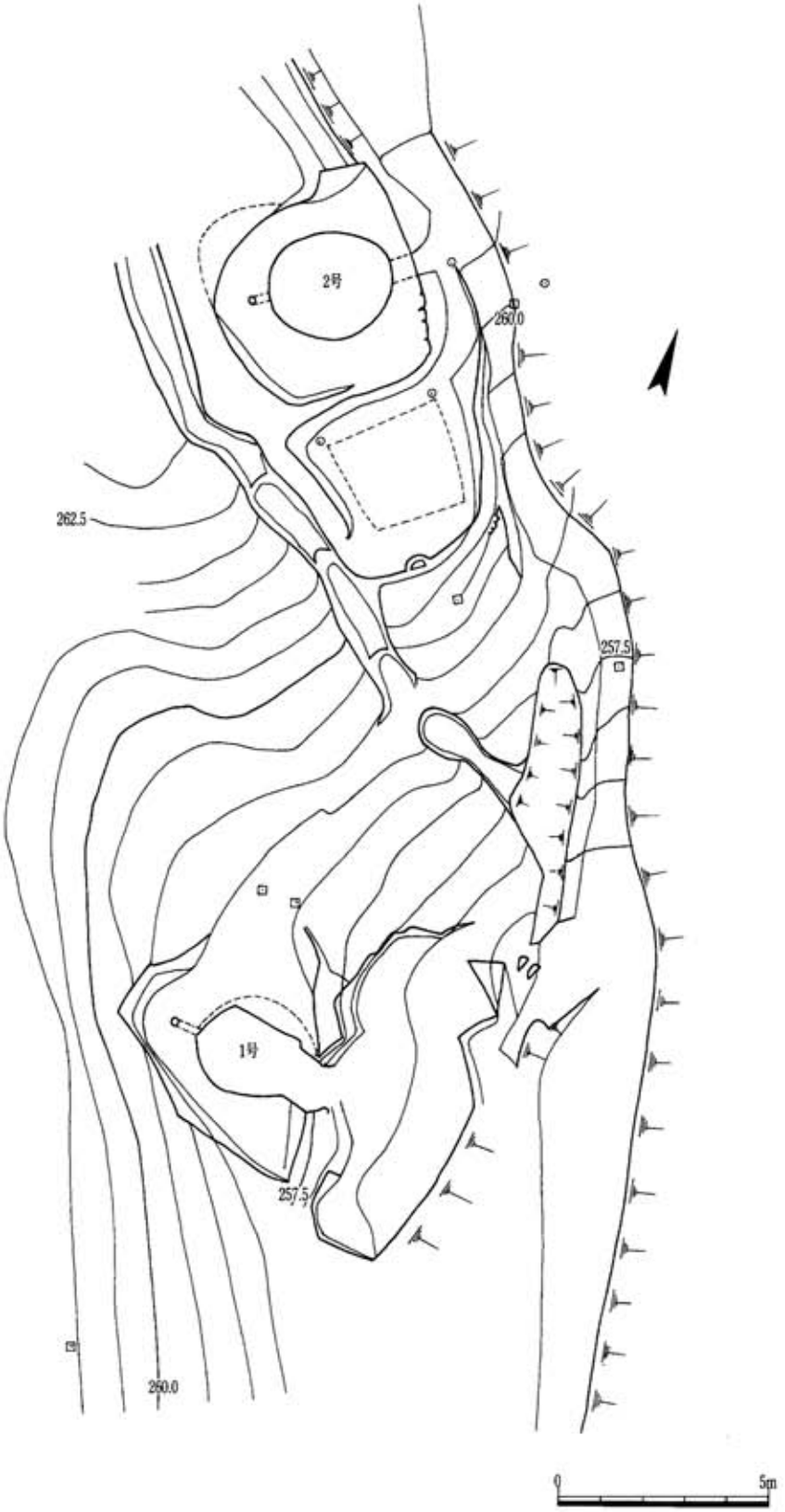


図16　厳木町炭窯周辺地形図

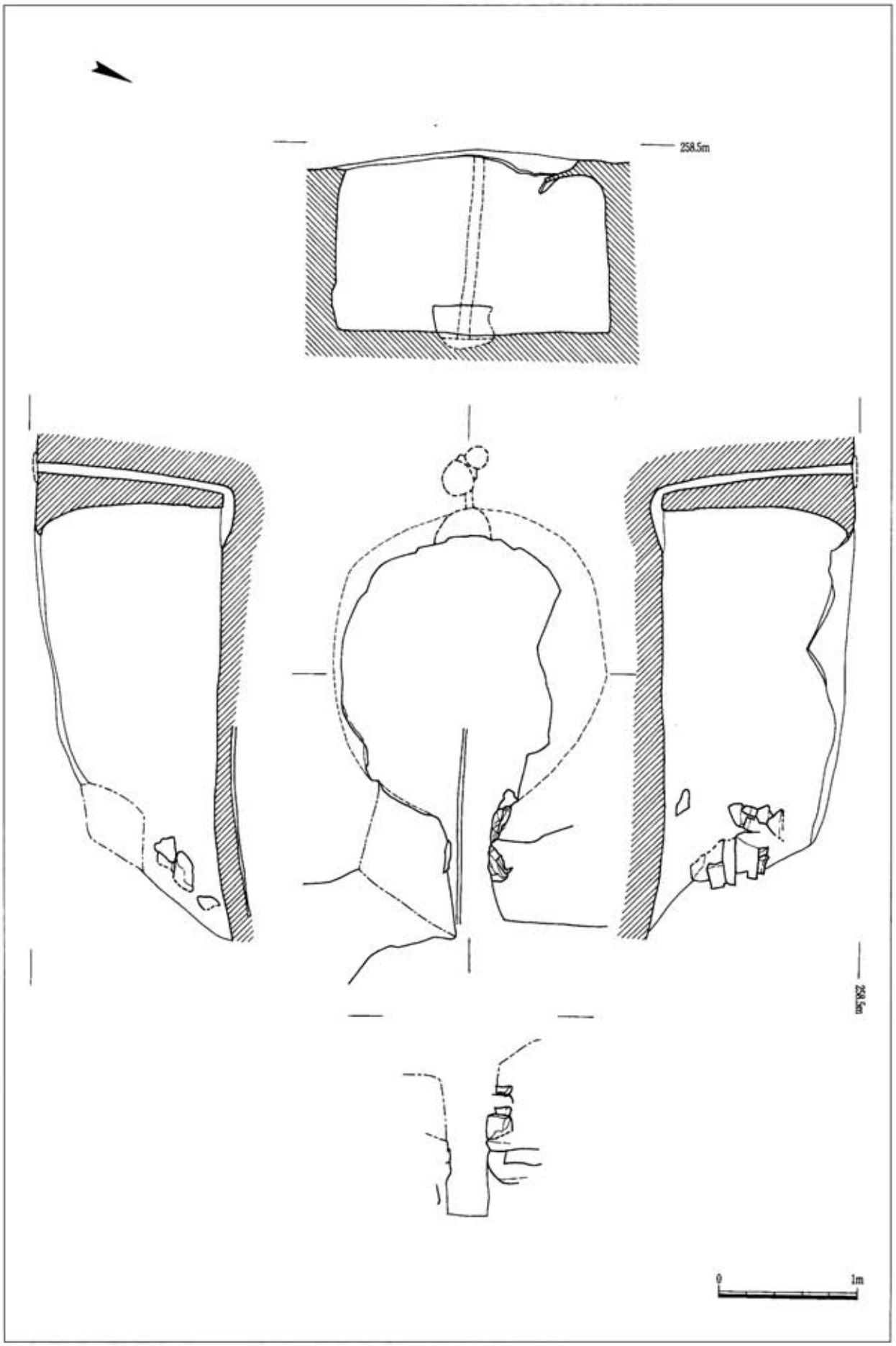


図17　厳木町炭窯（1号）実測図

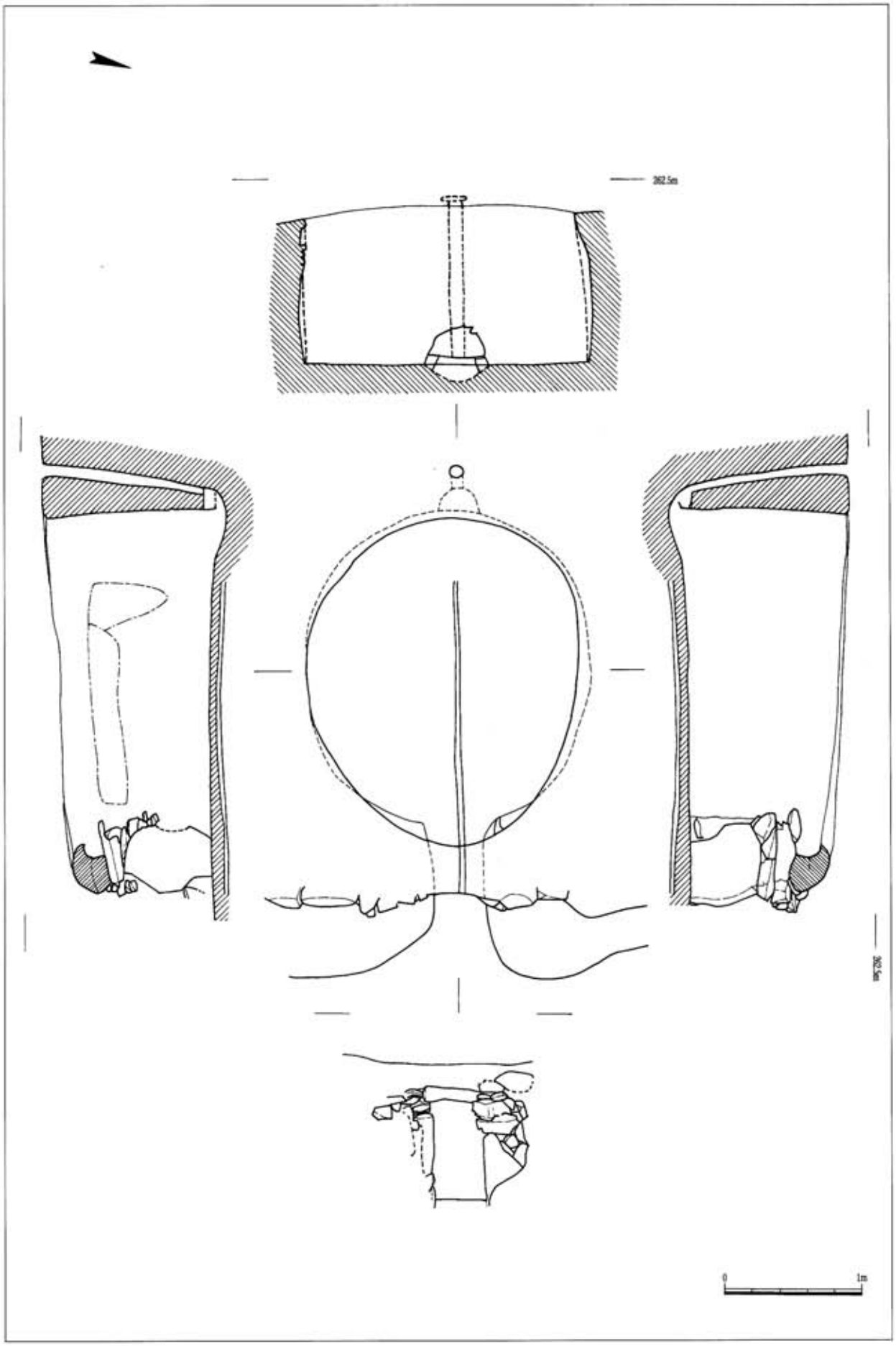


図18　嚴木町炭窯（２号）実測図

われる窯の奥から入り口方向に傾斜をつけた直径４～５㎝の空洞が検出された。貯炭小屋を建てたと思われる平地には、柱穴と思われる小穴を２カ所確認した。２号窯の後方斜面には、窯の主軸に直交する形で、排水溝が掘り込まれていた。

今回の調査では、通常調査対象としていない戦後～昭和40年頃まで営まれていた炭窯を対象に調査を行ったが、エネルギー燃料体系の変化に伴い消滅しつつある、こうした近代の遺跡を記録に残せたことは意義深い。

（３）その他の地区（伊万里市、西有田町）

伊万里市は、国営本瀬戸幹線道路開設事業に伴い、伊万里市木須町の2.0haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、矢竹川によって形成された標高約31～34ｍの丘陵部と標高約1.5ｍの旧氾濫原部分を中心としており、現状は丘陵部分は畑、旧氾濫原部分が水田である。周辺の丘陵上には、旧石器～縄文時代にかけての石器が出土した真中遺跡が所在し、南方向約1.5㎞には、標高約5ｍの場所で縄文時代の包含層を確認した宮ノ前北遺跡が所在する。

調査は、調査区内に任意で４ヶ所のトレンチを設定し行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。今年度の調査では、昨年度の確認調査で縄文時代前期頃の包含層を確認した樽浦遺跡の範囲の広がりが、約360㎡であることが確認された。

西有田町は、県営中山間地域総合整備事業（19号農道立木原線・大鳥ヶ倉地区圃場整備・20号農道矢杖線）に伴う、西有田町大木乙の計12.4haを対象に確認調査を行った。

19号農道に伴う調査対象地は、国見山東麓の東西に延びる台地上に位置し、立木原遺跡・伊古石遺跡に含まれる。周辺には、谷をはさんで南の台地に壁岩遺跡、北に石鏃・コア・土器片が出土した開副遺跡が所在する。

調査は、計画路線内に７ヶ所のトレンチを設定し行ったが、遺構・遺物は検出されず、事前踏査及び今回調査結果から、遺跡は遺跡地図記載の範囲より狭まり、南北を自然崖にはさまれた幅40～80ｍの中にあると考えられる。大鳥ヶ倉地区の調査対象地は、国見山東麓の東西に延びる丘陵と丘陵の間の谷に位置し、大鳥ヶ倉遺跡内にある。周辺では、北側の扇状地に旧石器時代のナイフ・コア等が出土した寺尾遺跡が所在する。

調査は、計画路線内に15ヶ所のトレンチを設定し行ったが、遺構・遺物は検出されず、対象地のさらに東に黒曜石片等の散布が多いという土地所有者の話からも、遺跡の中心は東側にあると考えられる。

20号農道に伴う調査対象地は、国見山東麓の東西に延びる丘陵上に位置し、矢杖遺跡に含まれる。遺跡の範囲は丘陵上の平坦部を占めているが、北側の崖際まで広がっており、丘陵北側の扇状地を志向した在り方がうかがえる。周辺には、浄源川を挟んで北側の扇状地に、縄文時代の住居跡が確認された伊古石遺跡や縄文中期の貯蔵穴群が確認された坂の下遺跡が所在するなど近隣には多くの縄文時代の遺跡が所在している。

調査は、計画路線内に12ヶ所のトレンチを設定し行ったが、調査前の踏査を含め遺構・遺物ともに検出されず、また現況の蜜柑畑の所有者の話に、今回の調査対象地南側で過去に石器などを採集したということがあることから、遺跡の中心地はさらに南にあると推測される。

５．佐賀上場地区の調査

（１）唐津市［上場Ⅱ期地区（竹木場地区・菅牟田地区）・東部地区（柏崎地区）］

上場Ⅱ期地区は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴う唐津市竹木場の竹木場地区（図20）の0.2ha、唐津市菅

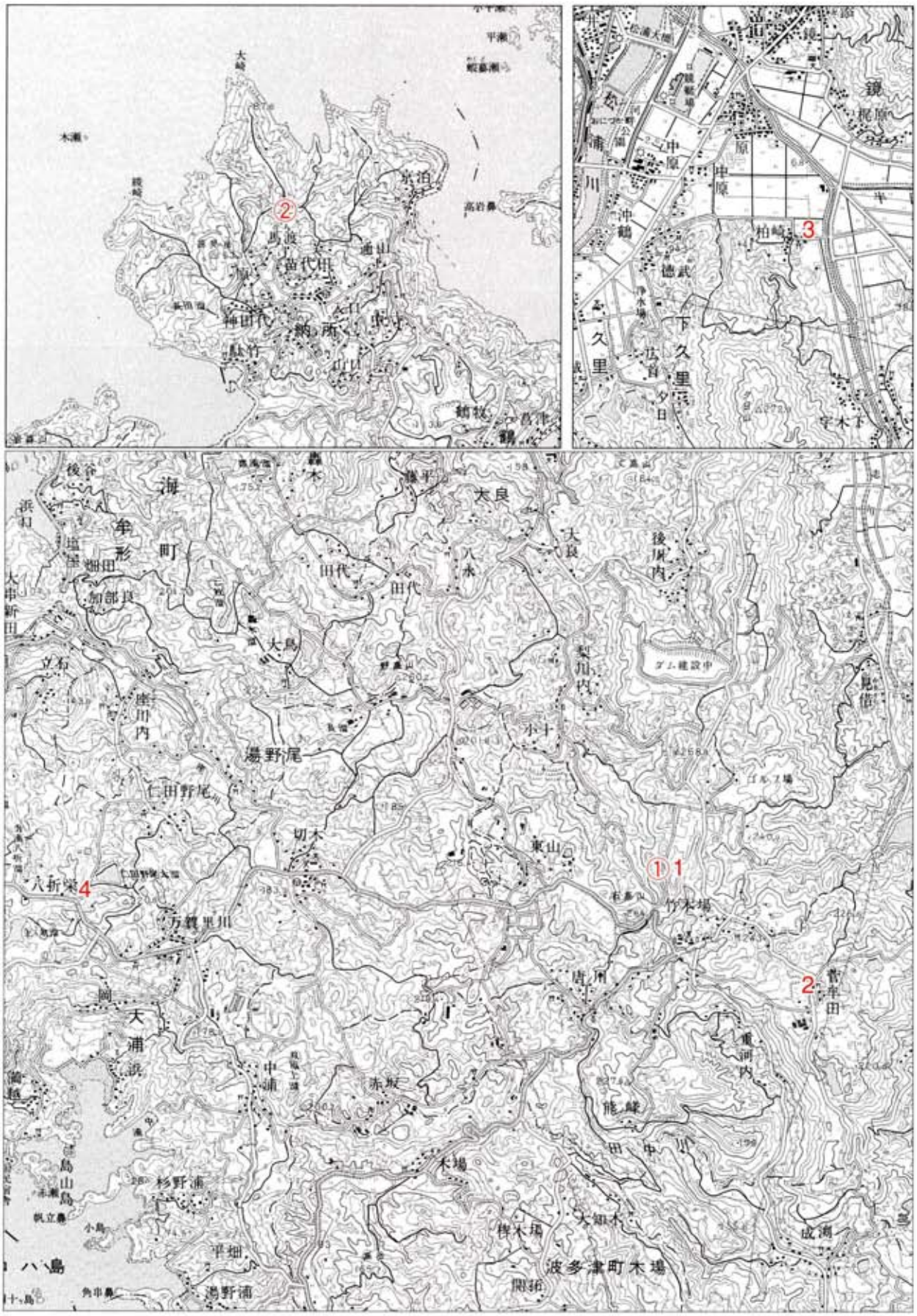


図19　佐賀上場地区周辺地形図（1:50,000）

1．唐津市［上場Ⅱ期地区（竹木場地区）］　3．唐津市［唐津東部地区（柏崎地区）］　①竹木場丹ノ木遺跡
2．〃　［　〃　（菅牟田地区）］　4．肥前町［上場Ⅲ期地区（寺浦支線19号）］　②納所笹山遺跡

牟田の菅牟田地区（図21）6.4haを対象に、確認調査を実施した。

竹木場の調査対象地区は、唐津市の西側に広がる標高約220ｍ前後の上場台地（通称）の南部に流れる松浦川支流のひとつである田中川の源流付近にあたる。本地区は旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く見られ、調査区を南西に少し下ると、縄文時代の貯蔵穴が検出され、多量の遺物が出土した高峰遺跡や唐ノ川丸尾遺跡、唐ノ川西ノ吹遺跡が所在しており、また南東には竹木場前田遺跡、菅牟田黒龍遺跡等多くの遺跡が所在する。

調査は、前年度の工事区に新たに組み込まれた現水田耕作地に舌状に延び出した部分に、６ヶ所のトレンチを設定して行った。水田を挟む東西２ヶ所の表土下から、前年度旧石器・縄文時代の遺物が出土した黄褐色土層を検出した。土層中からは、安山岩の剥片等が出土し、黒曜石の表面採集があったことから、今回の調査部分は削平等が少なく、遺跡の遺存状況は良好と考えられ、特に今回対象となる地区の0.2haのうち約0.05haに集中するものと考えられ、この地区を竹木場丹ノ木遺跡として周知化した。

菅牟田の調査対象地区は、上場台地上の、標高約210ｍ前後の準平原状の緩斜面に立地しており、ほぼ中央を東西に小河川が流れ、調査区東側台地先端の滝につながる。本地区においても竹木場地区同様に旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡が多く見られ、荒谷遺跡、菅牟田西山遺跡、菅牟田Ⅱ遺跡等が含まれる。また、周辺には菅牟田黒龍遺跡、竹木場前田遺跡、山田団六遺跡等が所在する。

調査は、調査区内に任意に48ヶ所のトレンチを設定して行い、柱穴状の遺構と遺物包含層を検出した。また、遺物包含層の黄褐色土層から彫器や剥片等の旧石器時代から縄文時代にかけての石器が出土した。

今回の圃場整備予定地区は、遺跡の遺存状況が良好な部分が多く、周辺は数多くの調査が行われた重要な地区であることから、保存のための十分な協議が必要であると思われる。

東部地区は、県営中山間地域総合整備事業に伴う唐津市柏崎の柏崎地区（図22）の1.4haを対象に、確認調査を実施した。

調査対象地区は、松浦川支流の宇木川の東側に立地し、夕日山が北に延び出した低丘陵の先端部落ちがけに位置するものと見られ、弥生時代～古墳時代にかけての集落跡の広がりを知る重要な地点である。周辺の隣接地には外園古墳と触角式銅剣が出土した柏崎遺跡があり、その外にも数多くの遺跡が所在する。

調査は、南側の360㎡に任意に７ヶ所のトレンチを設定して行い、北側の440㎡の調査については次年度以降に実施するよう調整を行った。調査区の北側は大きく削平をうけていたが、南側では柱穴状の遺構と遺物包含層が検出され、弥生土器片、須恵器、甑の把手、土師Ⅲ等が出土したことから、この部分の約240㎡については、遺跡の遺存状況は良好と見られる。また、調査区は北側の梅白遺跡に近接する地区でもあり、柏崎遺跡の東側の広がりを知る重要な地点であると思われる。

（２）肥前町［上場Ⅲ期地区（寺浦支線道路19号）］

上場Ⅲ期地区は、県営畑地帯総合土地改良事業（寺浦支線道路19号）に伴い、肥前町大字万賀里川の2.0haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、標高190～200ｍの東に延びる丘陵地の先端部に位置する、現況が畑地の八折地区と、標高約180ｍの南東に向く谷部の傾斜地に位置する現況が水田として利用されている山鳥地区の２ヶ所である。八折地区の対象地のすぐ北側には、縄文時代の仁田野尾Ⅳ・仁田野尾Ⅵ遺跡が所在し、山鳥地区の対象地の南側には、旧石器時代・縄文時代の仁田野尾Ⅱ・Ⅴ遺跡が所在する。

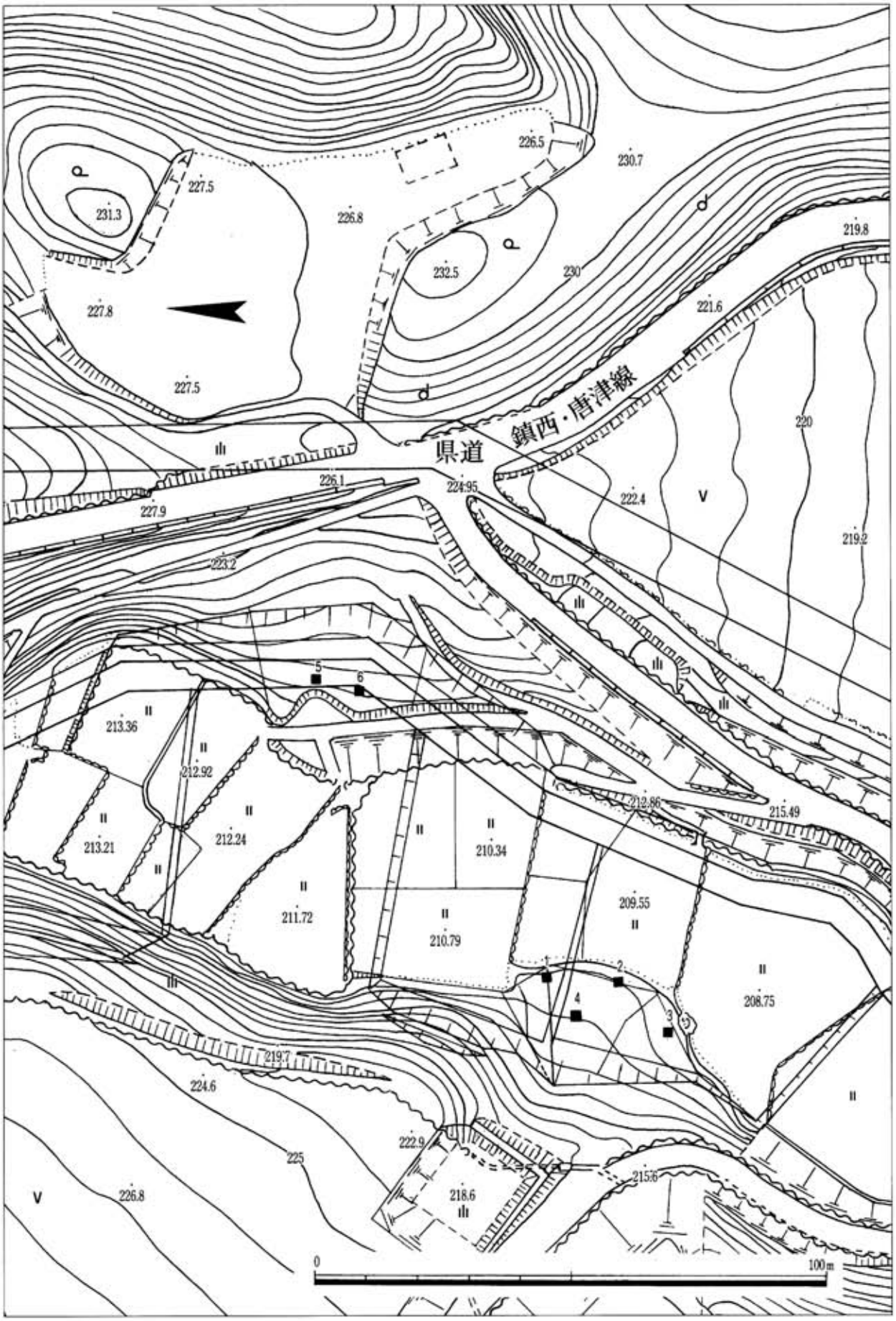


図20　唐津市上場Ⅱ期地区（竹木場地区）トレンチ配置図

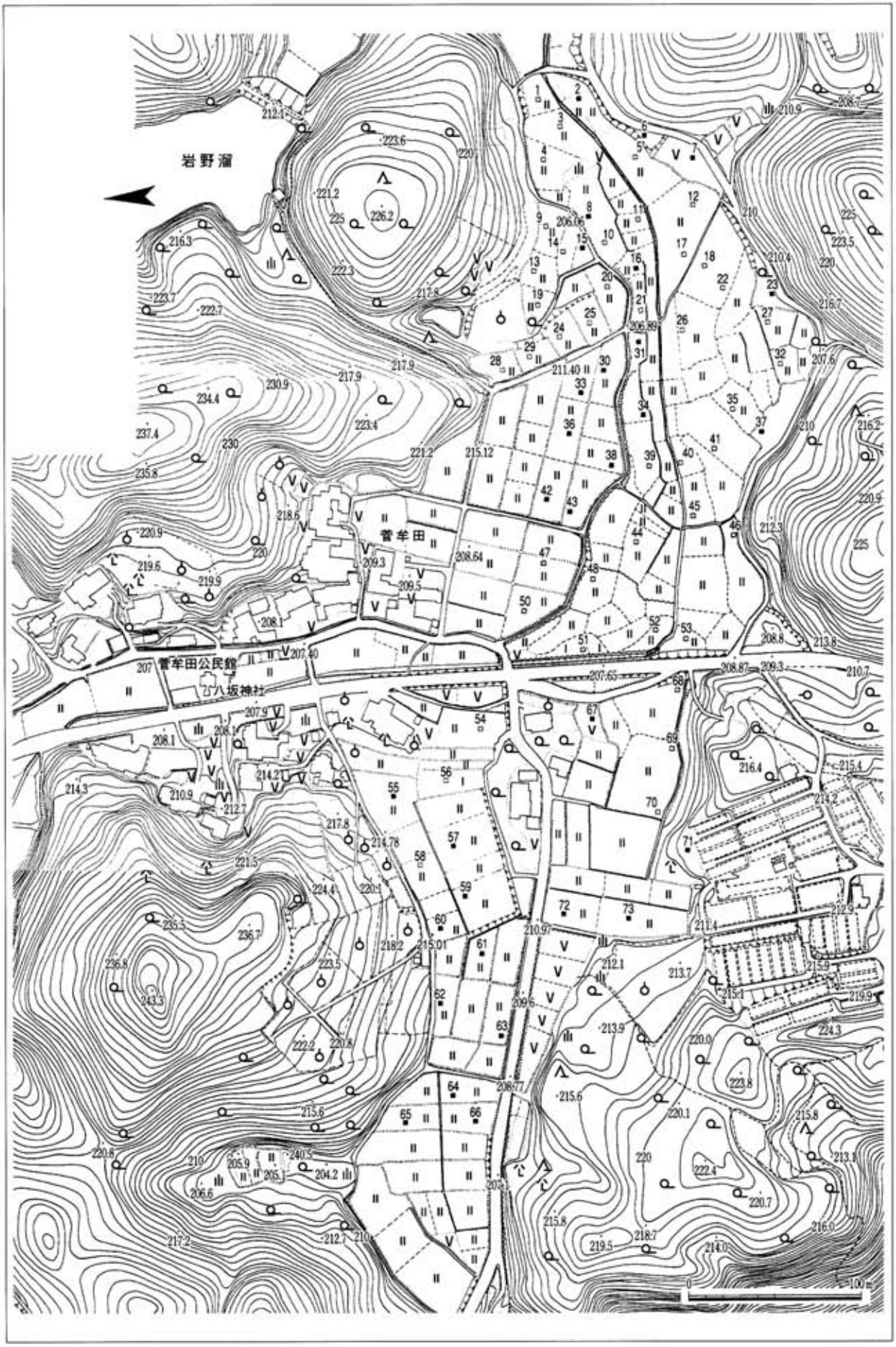


図21　唐津市上場Ⅱ期地区（菅牟田地区）トレンチ配置図

調査は、それぞれの調査地区に任意に２ヶ所ずつのトレンチを設定して行った。山鳥地区については遺構・遺物ともに検出されなかったが、八折地区については、遺構は検出されなかったものの自然層が良好な状態で検出され、遺物も第１トレンチからナイフ形石器１点・細石刃１点・剥片３点・チップ６点、第２トレンチからナイフ形石器１点・細石刃３点・剥片２点・チップ３点がそれぞれ出土し、表土上からは石鏃が採集された。

今回の調査結果より、八折地区の調査対象地西側については、上層が削平されている可能性があるが、全域が旧石器時代の遺跡と考えられるため、八折遺跡として周知化した。

図22　唐津市東部地区（柏崎地区）トレンチ配置図

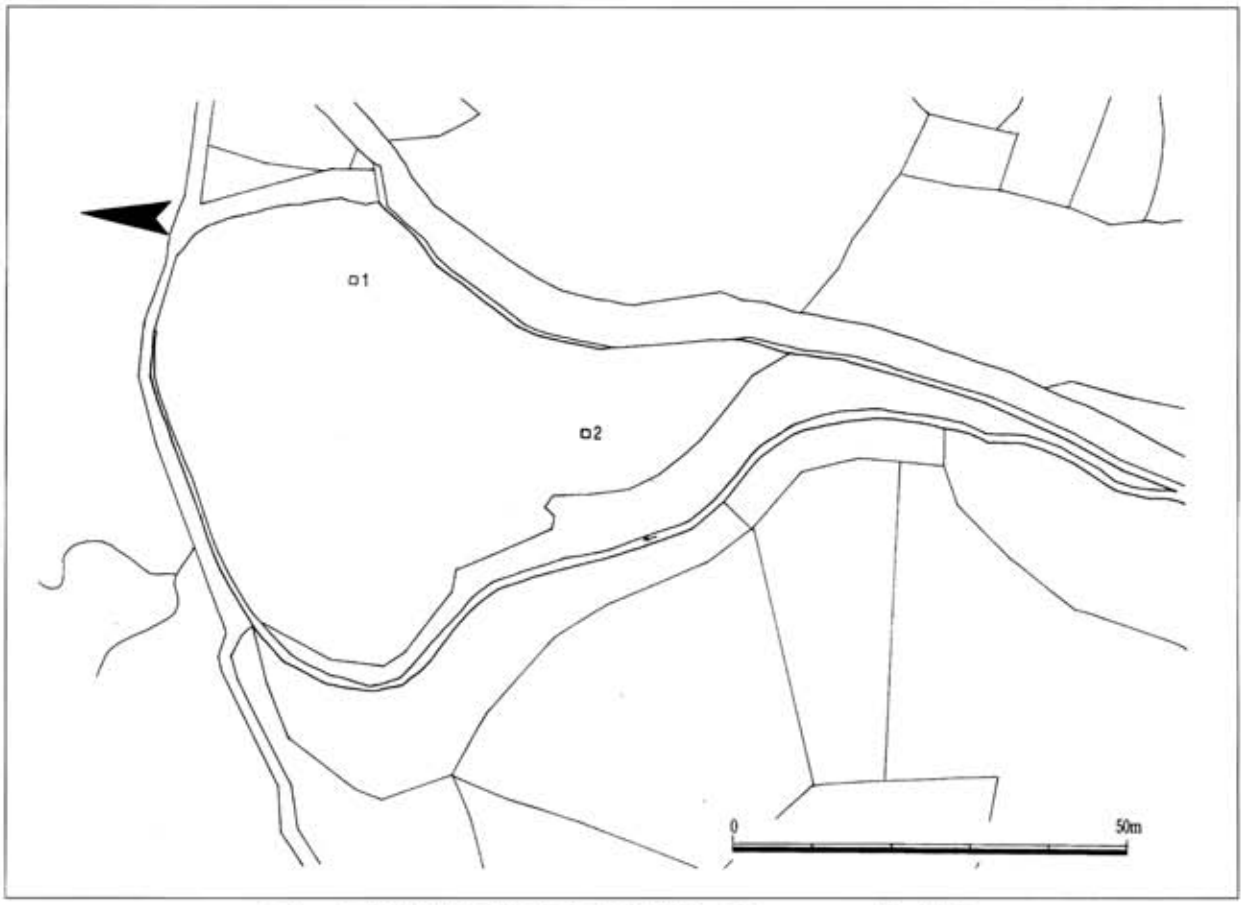


図23　肥前町上場Ⅲ期地区（寺浦支線19号）トレンチ配置図①

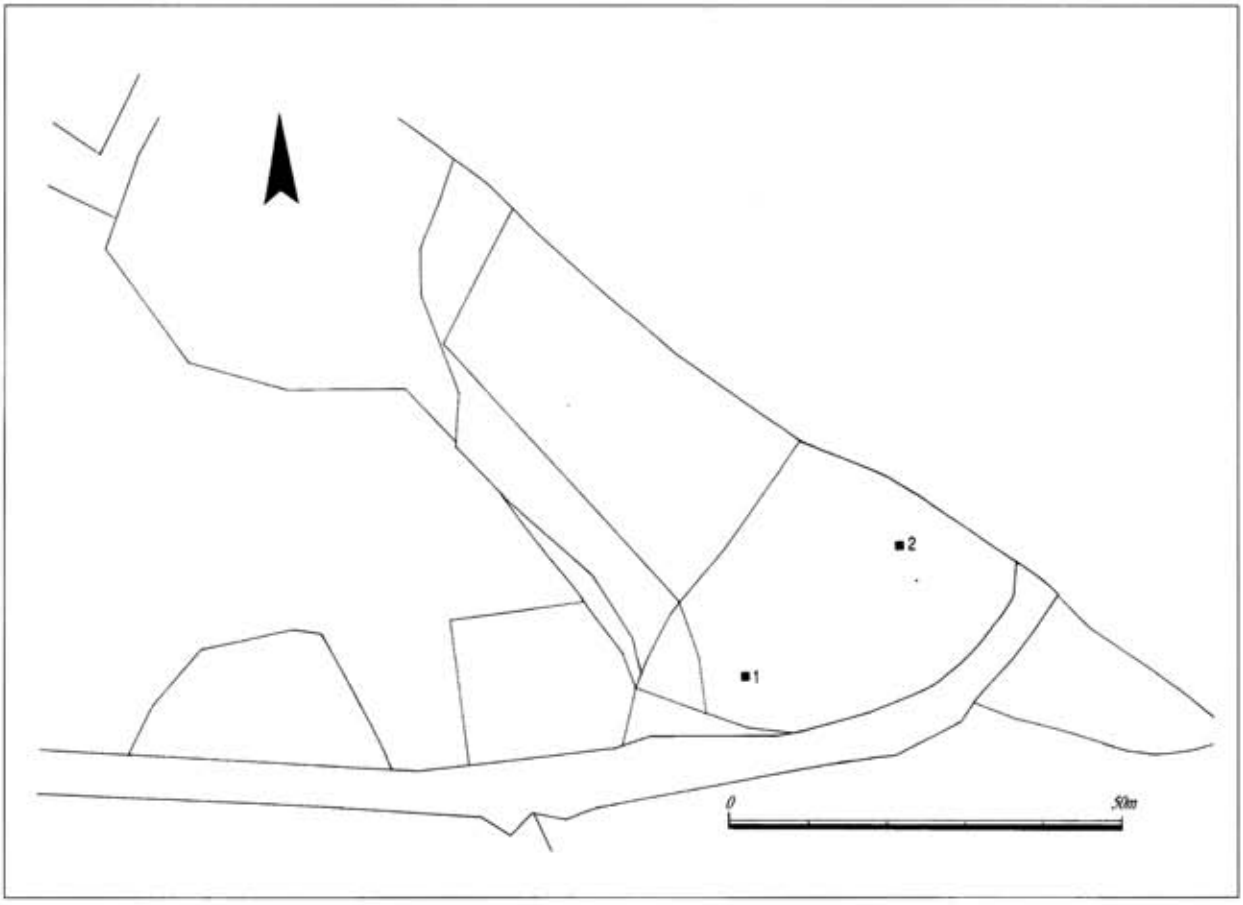


図24　肥前町上場Ⅲ期地区（寺浦支線19号）トレンチ配置図②

Ⅲ．平成９年度発掘調査の概要

１．堤三本柳遺跡（略号：ＴＳＹ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字三本柳

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成９年10月～平成10年２月

調査面積

2,500㎡

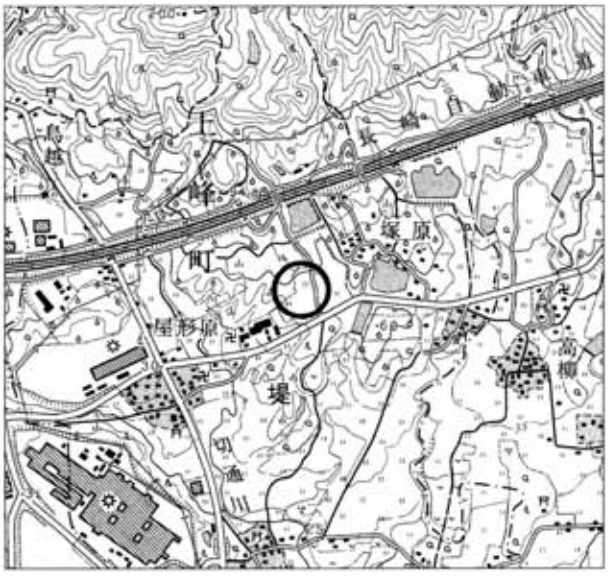


図25　堤三本柳遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

堤三本柳遺跡は上峰町の北部、県道鳥栖・川久保線以北、長崎自動車道以南の切通川西岸にあり、脊振山系から派生する標高36～38ｍの低位段丘上に立地する。遺跡周辺は水田及び畑として利用されている。

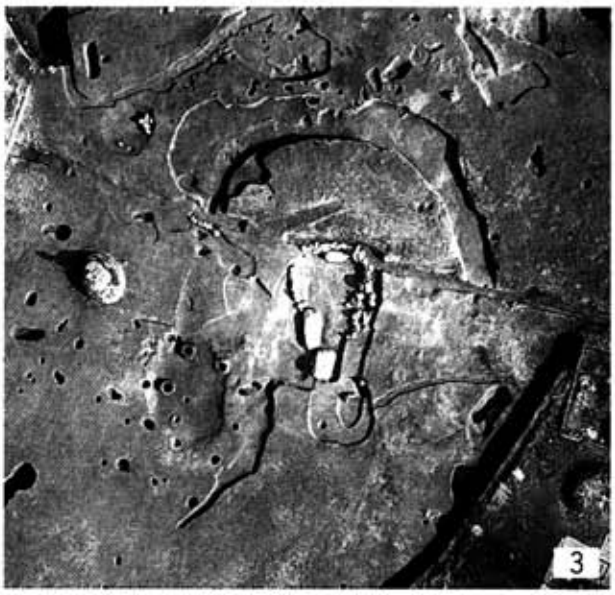
本遺跡の周辺には、山麓部に青柳、新立、谷渡、鎮西山南麓古墳群が分布し、古墳時代後期の小円墳が点在する。南に隣接する屋形原遺跡では、昭和53年度に発掘調査が実施されており、古墳時代後期の集落跡が確認されている。その南方には、縄文時代から平安時代にわたる集落を中心とした複合遺跡である堤六本谷遺跡や八藤遺跡、舶載鏡など貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡がある。また、二塚山丘陵と八藤丘陵を遮断する形で築かれている堤土塁跡が所在する。さらにその南方には弥生時代の集落と墓地を中心とした船石遺跡、船石南遺跡が所在する。近年、県営圃場整備事業に伴う発掘調査で比較的希薄であった縄文時代の集落跡が確認され、佐賀東部の縄文時代の集落立地の解明や変遷を考察するうえで貴重な資料が得られている。

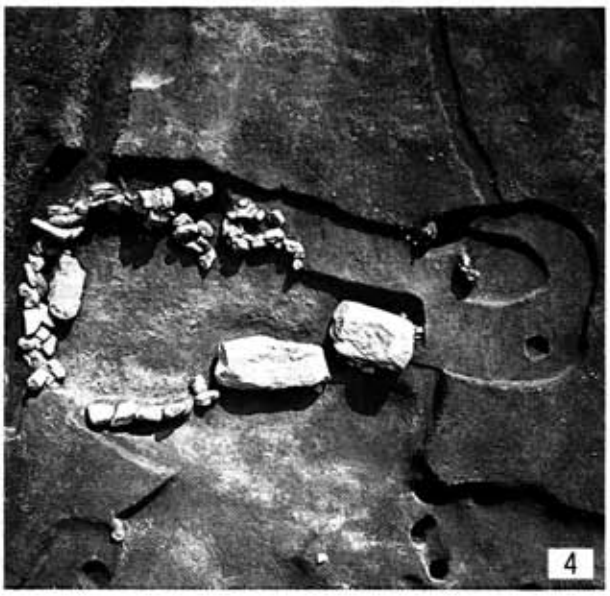
調査は、「県営圃場整備事業上峰北部地区」に伴い、面工事で削平される部分2,500㎡を１区（625㎡）と２区（1,875㎡）の小区に分けて実施した。

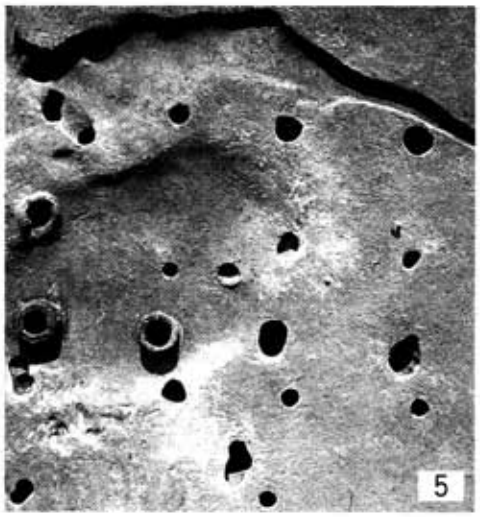
１区の調査では、明確な遺構は検出できず、流れ込みに起因すると考えられる土師器片、中世土器片、近世磁器片が出土したにすぎなかった。しかし一部に検出面の下層に遺物包含層の存在が想定されたので、トレンチ及びグリッドを設定し掘り下げた。

２区の調査では、掘立柱建物跡・土壙・小穴が検出された。また１区と同様にトレンチ及びグリッドを設定し慎重に掘り下げた。

今回の調査によって、調査対象地が弥生時代から奈良時代にかけての集落跡の周辺部に相当することが判明したが、遺跡の性格を決定づけるまでには至らなかった。また下層においても明確な遺構を検出できなかったが、断片的ではあるが縄文時代以前のものである可能性が確かめられたことから、今後の調査例の増加を待って判断しなければならないと思われる。







図版１　堤三本柳遺跡
１．全景　２．全景　３．ST001古墳　４．ST001古墳　５．SB002掘立柱建物跡　６．SK004土壙

2．青柳古墳群（略号：ＡＯＹ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字三本柳

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成９年９月～平成10年１月

調査面積

5,000㎡

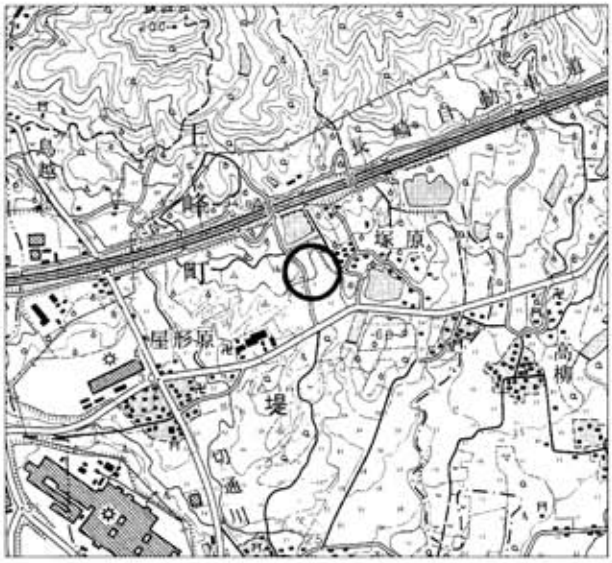


図26　青柳古墳群位置図（1:25,000）

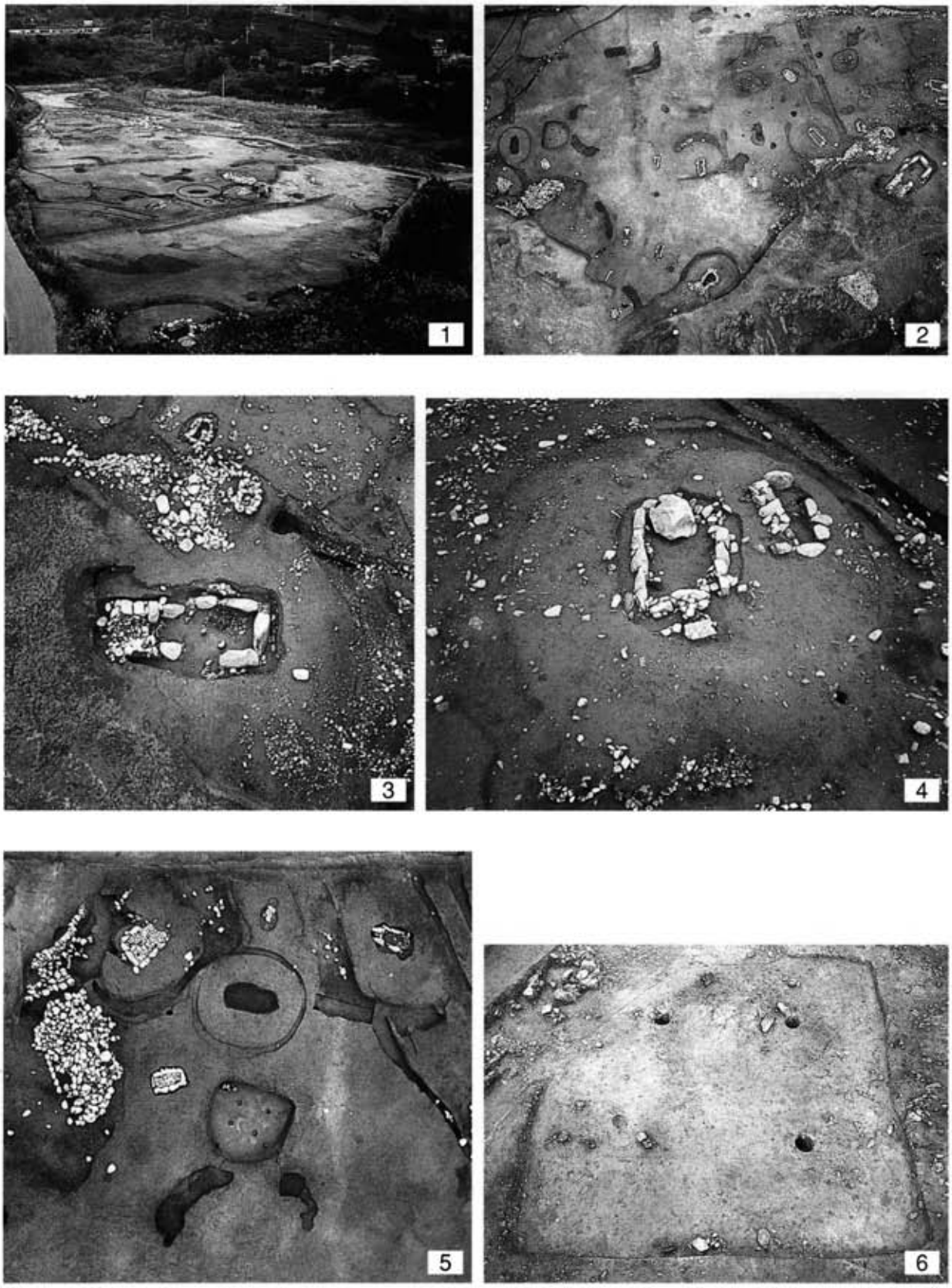
遺跡の概要

青柳古墳群は上峰町の北部、県道鳥栖・川久保線以北、長崎自動車道以南の切通川西岸にあり、脊振山系から派生する標高45ｍ～50ｍの低位段丘上に立地する。遺跡周辺は水田及び畑として利用されている。

本遺跡の周辺には、山麓部に二本柳、新立、谷渡、鎮西山南麓古墳群が分布し、古墳時代後期の小円墳が点在する。南に隣接する屋形原遺跡では、昭和53年度に発掘調査が実施されており、古墳時代後期の集落跡が確認されている。その南方には、縄文時代から平安時代にわたる集落を中心とした複合遺跡である堤六本谷遺跡や八藤遺跡、舶載鏡など貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡がある。また、二塚山丘陵と八藤丘陵を遮断する形で築かれている堤土塁跡が所在する。さらにその南方には弥生時代の集落と墓地を中心とした船石遺跡、船石南遺跡が所在する。近年、県営圃場整備事業に伴う発掘調査で比較的希薄であった縄文時代の集落跡が確認され、佐賀東部の縄文時代の集落立地の解明や変遷を考察するうえで貴重な資料が得られている。

調査は、「県営圃場整備事業上峰北部地区」に伴い、面工事で削平される部分5,000㎡について実施した。その結果、縄文時代後期の土壙、古墳時代の石棺墓16基、横穴石室をもつ古墳２基、竪穴式住居跡１軒、土壙等が検出された。出土した遺物では、石棺墓、古墳より鉄鏃などの鉄製品や金箔青銅製の耳環５点、管玉２点のほか土師器・須恵器が出土した。また遺構検出面から多量の縄文土器片が出土し、近年の農業基盤整備事業に伴う発掘調査で確認されている縄文時代の集落が広範囲に形成されていることが考えられる。

今回の調査で、調査地区のほぼ全域が削平を受けていたが、この地域の古墳時代の墳墓の諸形態及び変遷を知る上で貴重な資料が得られた。また、縄文時代の遺構の規模や全体像を解明するに至らなかったが、この地域において比較的希薄であった縄文集落立地の解明や変遷を考察する貴重な資料が得られた。



図版２　青柳古墳群
１．全景　２．南側全景　３．ST001古墳　４．SC001・002石棺墓　５．石棺墓及び土壙群　６．SH051竪穴住居跡

3．貝野遺跡１区（略号：ＫＮＯ－１）

遺跡の所在地

佐賀郡富士町大字古湯字御民田

調査主体者

富士町教育委員会

調査期間

平成９年12月12日～平成10年１月27日

調査面積

119㎡

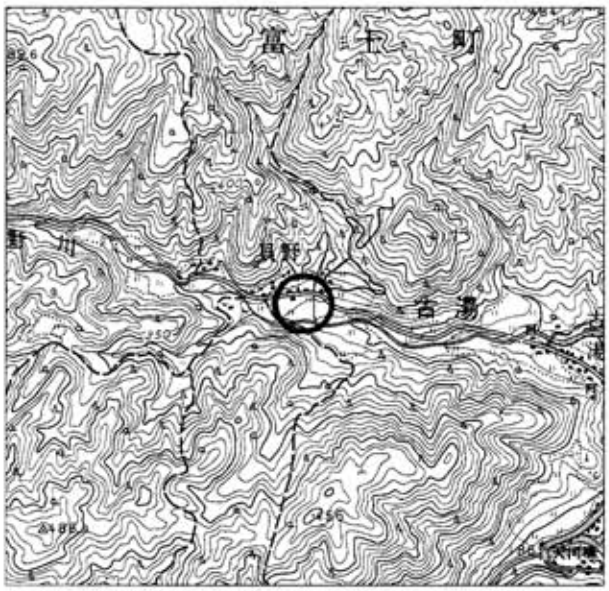


図27　貝野遺跡１区位置図（1:25,000）

遺跡の概要

貝野遺跡１区は、富士町の南部に位置し、天山山系丘陵の裾部、嘉瀬川水系の貝野川によって形成された標高約273～279ｍの北から南へ低くなる河岸段丘等の当該地域においては比較的緩やかな斜面上に立地する。斜面上には棚田・畑等の耕作地が発達しており、調査前は水田・畑地等としての土地利用がなされていた。貝野遺跡を含む周辺地域においては、これまで埋蔵文化財関係の調査例も無く、貝野遺跡は縄文時代の遺物散布地として周知化されているに過ぎなかった。今回の本調査に先立つ確認調査において中世・近世の遺構が検出され、また本調査によって縄文時代の包含層が検出されたことによって初めて具体的な遺構の内容が明らかになり、調査面積は少ないものの大きな成果をあげることができた。以下に確認調査、本調査の概要を記す。

確認調査では、当初計画の道路拡幅部分について試掘坑を設定した。調査の結果、Ｔ１試掘坑で中世・近世の小穴・土壙？、Ｔ３・４試掘坑で小穴（中・近世？）が確認されたが、Ｔ２試掘坑以南の河川寄りの低地部においては近代・現代における切土・盛土等のために遺構密度は低いものと考えられた（Ｔ２削平、Ｔ５・６遺構なし）。また、多量の大小自然礫を含んでおり、本調査の実施において難航することが予想された。尚、確認調査においては、縄文時代の遺物は確認していない。

本調査は、工事計画の変更等により、確認調査時において最も遺構密度の高い箇所（Ｔ１周辺）は除外されたが、調査区Ａ（調査区は諸般の事情により南北に分断されており、便宜的に北側を調査区Ａ、南側を調査区Ｂとする）において遺構検出を実施したが遺構密度が低かったため、さらに掘削を実施したところ、中世・近世の遺構検出面下約0.6～0.9ｍにおいて、押型文土器・条痕文土器等を包含する縄文時代早期の遺物包含層が検出された。遺物包含層はさらに調査区Ｂの北側部分にまで広がっていることが確認された。本調査において検出した遺構等は、縄文時代の包含層、中世・近世と考えられる小穴等である。調査区Ａ以南の大部分において、近・現代におけるものと考えられる切土・盛土が存在しており、また、多量の大小自然礫（大半が花崗岩系）を含んでおり中世・近世期と考えられる遺構の遺存状況は悪く、出土遺物も少なく本来的に遺構の希薄な部分と考えられる。調査面積は調査区Ａが11.2㎡、調査区Ｂが108.2㎡、合計119.4㎡である。

図版３　貝野遺跡１区
　１．１区遠景（東から）
　２．１区近景（北から）
　３．調査区Ａ
　　縄文時代包含層（南から）

4．森田遺跡（略号：ＭＲＴ）

遺跡の所在地

佐賀市鍋島町大字森田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成９年７月29日～平成９年11月28日

調査面積

3,990㎡

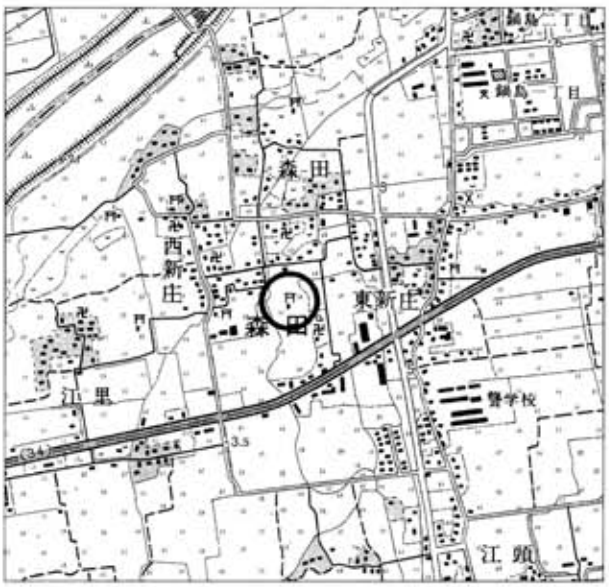


図28　森田遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

森田遺跡は佐賀市中西部に所在する。佐賀平野中部地区に位置し、地形的には有明海北岸地域における中間低地に立地する。現況は部分的に高畑が存在するが、大部分は水田であり、水田部分の標高は約４ｍである。

森田遺跡における調査は今回が初めてであるが、調査地の南約750ｍには、平安時代末から鎌倉時代初頭の屋敷地の一部を検出した大西屋敷遺跡、西約1.5㎞には弥生時代・中世の集落を検出した開成小学校遺跡、北約1.8㎞には細形銅剣・銅戈鋳型・擬朝鮮系無文土器が出土した鍋島本村南遺跡、北東約2.5㎞には弥生時代の集団墓地が広範囲で検出された増田遺跡群が所在する。

森田遺跡１区では弥生時代・中世・近世の遺構を検出した。

弥生時代の遺構は甕棺墓１基のみである。残存状況が悪く詳細は不明であるが、調査地周辺においても弥生時代の集団墓地が存在した可能性を示唆する。

中世・近世の遺構は掘立柱建物・井戸・土壙・溝・小穴・谷である。

溝には区画溝が含まれる。区画溝は調査地のうち幅20ｍ弱の幹線水路部分で検出したため、全容は不明であるが、東西方向に細長い調査区の西側に存在し、東側を上方とする概ねＴ字形を呈する。区画溝以外の主な溝としては同調査区のほぼ中央で南北方向に検出した大溝があげられる。断面形は概ね幅広のＵ字形を呈するが、中央がやや細く掘り込まれ、二段堀りとなっている。このような形状から堀的な溝の可能性も考えられる。掘立柱建物は区画溝の内側・外側ともに検出し、内側で検出したものは区画溝の北側の区画に存在し、軸方向も区画溝に沿うと考えられる。この建物は区画溝に伴うものと考えられるが、建物の北側は調査区外に展開するため全容は不明である。谷は、調査区全体の東側と西側に各々南北方向に検出され、中世から近世にかけてはこれら２条の谷に挟まれて集落が営まれていたと考えられる。

図版４　森田遺跡

１．中央部全景（西から）　２．西端部全景（北から）　３．甕棺墓検出状況（北から）
４．井戸完掘状況　５．溝完掘状況（北から）　６．溝完掘状況（西から）

5．江頭遺跡９区（略号：ＥＧＳ－９）

遺跡の所在地

佐賀市鍋島町大字森田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成９年８月～平成９年10月

調査面積

1,250㎡

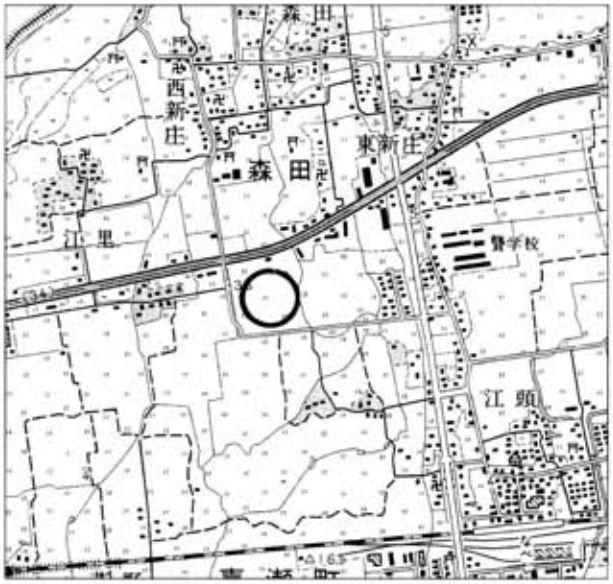


図29　江頭遺跡９区位置図（1:25,000）

遺跡の概要

江頭遺跡は嘉瀬川東岸部に広がる沖積平野に位置している。平成７年度の確認調査で新たに周知化された遺跡である。遺跡周辺部では、南東約300ｍの位置で平成４・５年度に大西屋敷遺跡を調査しており、平安時代末～鎌倉時代初頭にかけての屋敷地の存在が確認されている。本遺跡と距離的に近いことから、遺跡の性格を考察する上では参考になる。

江頭遺跡９区を含めた周辺は水田地帯である。調査区部分は水路建設予定地にあたっており、遺構が削平されるため調査を実施した。

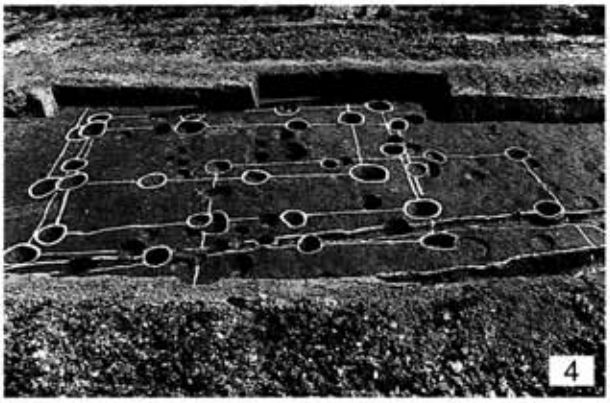
調査の結果、溝17条・掘立柱建物７棟・土壙１基・井戸11基を検出した。調査区は⊥形をしており、東部で溝・掘立柱建物・井戸を主体とする遺構が、中央部では溝と掘立柱建物が、北部では溝と掘立柱建物・井戸を主体とする遺構が検出されている。

まず調査区東部では、掘立柱建物２棟とＬ字に屈曲する溝、さらにその溝を切るかたちで土壙１基・井戸３基が検出できた。とくに溝は掘立柱建物を囲むようにＬ字に屈曲しており、区画を目的とした溝であると考えられる。溝は見かけ上、西側で二重・南側で三重であるが、溝には一部切り合い関係があり、時期差がある。大きくは、溝のみを掘削した時期と溝埋没後に土壙や井戸を掘削した時期があり、その変遷を示すがごとく掘立柱建物も一度建て直されている。

調査区北部では、並行する南北の溝に挟まれた区域のほぼ同じ場所に、掘立柱建物４棟が同様な規模・方位で建て直されている。掘立柱建物の方位と溝の流路方向がほぼ一致することから、両者は屋敷地と区画溝といったような有機的な関係があると考えられる。全容が知れる掘立柱建物は南北に長い２間×３間で、他も同様の規模・構造の掘立柱建物と推測する。なおこれら一群の溝と掘立柱建物の南方に井戸が点在する。

調査区中央部付近は遺構密度の薄い部分で、掘立柱建物１棟、その東に掘立柱建物の主軸と並行する溝２条およびそれに切られる溝１条が位置している。掘立柱建物は南北に長い２間×３間で、調査区北側の掘立柱建物と柱穴の配列・掘り方・規模・主軸方向が近似する。

全般的に遺物は少ないが、溝・井戸等出土の土師器坏・土師器小皿・瓦器碗・中国製の青磁・白磁等から、13～14世紀頃を主体とする集落（屋敷地）跡と考える。



図版５　江頭遺跡９区

１．調査区西部遠景　２．掘立柱建物と区画溝検出状況　３．ＳＤ9005・9006溝検出状況
４．掘立柱建物検出状況　５．ＳＢ9011掘立柱建物　６．ＳＥ9021井戸遺物出土状況

6．東淵遺跡１区（略号：ＨＢＣ－１）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字渕

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成９年４月～平成９年５月

調査面積

300㎡

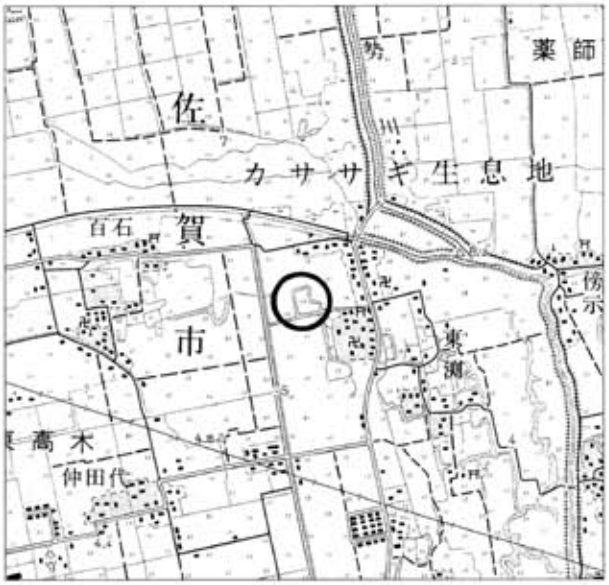
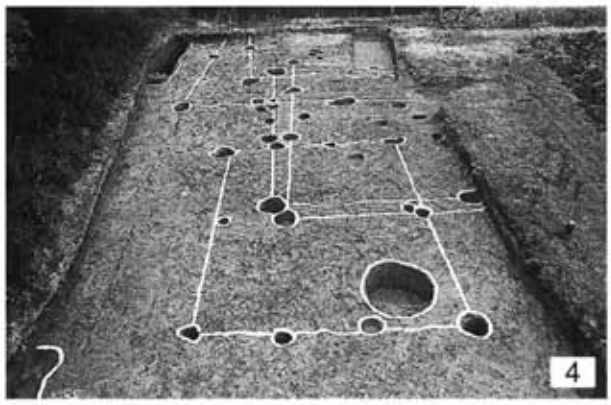


図30　東淵遺跡１区位置図（1:25,000）

遺跡の概要

東淵遺跡は金立山山麓部から広がる沖積平野の内、南流する巨勢川西岸域に位置している。平成７年度の確認調査で新たに周知化された遺跡である。よって過去における当遺跡内での本調査例はなく、今回が初めてである。遺跡周辺部では、南東約500ｍの位置で平成７年度に妙常寺北遺跡・妙常寺南遺跡を調査しており、中世～近世にかけての集落跡の存在が確認されている。本遺跡と同じ巨勢川西岸域に立地し、距離的にも近い関係にあることから東淵遺跡の性格を考慮する上では参考になる。

東淵遺跡１区の旧状は水田であり、その西方にも水田が広がっている。調査区部分は水路建設予定地にあたっており、遺構が削平されるため調査を実施した。調査の結果、溝５条・掘立柱建物５棟・土壙１基を検出した。とりわけ調査区北部検出の２条の溝は大きく、切り合い上最も新しいＳＤ101は幅約８ｍ、深さ1.2ｍ前後を測る。その下のＳＤ102はさらに大きな規模で、幅は10ｍ以上である。深さは1.2ｍ前後である。調査区中央近くにはＳＤ101に切られるＳＤ103がある。これはやや小規模で、幅が2.5ｍ前後、深さ約1.0ｍ前後である。以上の溝３条は西北西⇔東南東の方向で掘削されている。なお調査区東部にＳＤ103に切られる溝ＳＤ111が、調査区南東部にはＳＤ110が確認されたが、遺構のほとんどが調査区外に展開して全容は不明である。各溝とも出土遺物は極めて少ないが、おおよそ13～14世紀頃の遺構と推測される。調査区南半部で、柱穴多数が確認でき、掘立柱建物５棟分の柱穴の並びが確認された。全容を知り得るのはＳＢ104掘立柱建物で、規模は南北5.0ｍ内外、東西2.5ｍ内外の南北に長い２間×３間の遺構である。ＳＢ105掘立柱建物はおよそ東半部が確認でき、南北約８ｍで３間、東西は１間以上と推測する。他の３軒の掘立柱建物は遺構の北東部が確認されたが、大部分はクリークに切られて遺存しない。柱穴の規模は20～50㎝程度で、不整円形もしくは不整楕円形を呈し、深さは10～50㎝程度で、柱穴の大小はあるもののいずれも似た掘り方をしている。方位も座標北から西へ８°～17°の振れ幅にあり、ほぼ似た方位をもって建てられている。以上から５棟とも時間をおかず短い期間に次々と建て替えられたものと考える。ただし掘立柱建物からは遺物がほとんど出土していないので、時期の確定に窮する状況であるが、溝が区画など何らかの目的をもって掘られたと考えれば、掘立柱建物と有機的な関連性を推測することはできる。また土壙底部には、植物もしくは樹皮を敷いた状況が看取された。規模は１ｍ前後の不整楕円形で深さは0.35ｍである。遺物は皆無であり、どのような目的に使用されたかははっきりしない。狭小な範囲での調査のため資料的に乏しいことは否めないが、おおよそ13～14世紀頃の集落跡と考えることができる。



図版６　東淵遺跡１区

１．遺跡全景　２．ＳＤ103溝検出状況　３．ＳＤ101大溝検出状況
４．掘立柱建物検出状況　５．ＳＫ109土壙検出状況　６．ＳＤ110溝検出状況

7．赤司遺跡（略号：ＡＫＺ）

遺跡の所在地

小城郡三日月町大字道辺字緑

調査主体者

三日月町教育委員会

調査期間

平成９年８月１日～平成10年３月20日

調査面積

500㎡

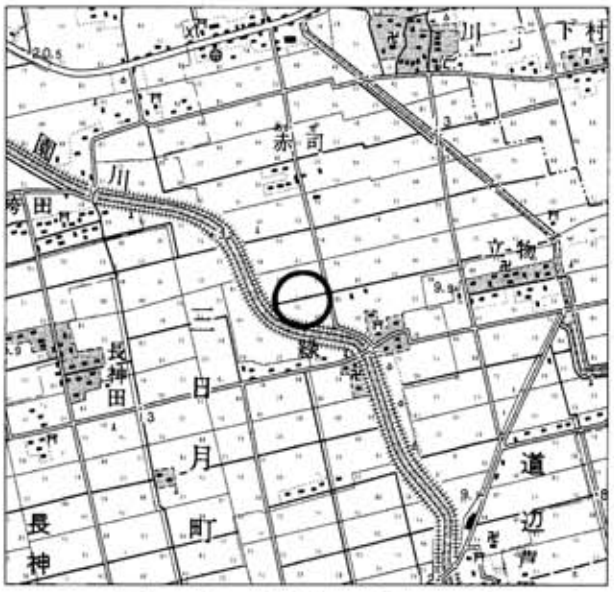


図31　赤司遺跡位置図（1:25000）

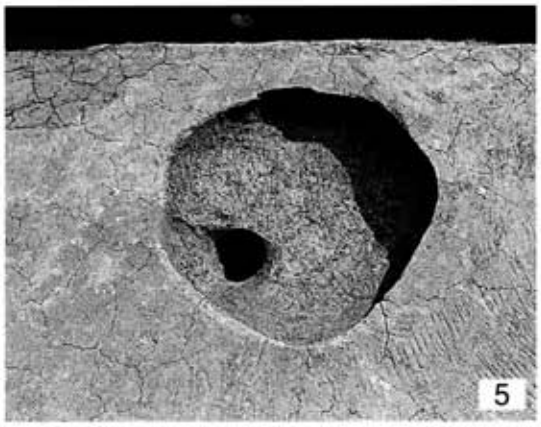
遺跡の概要

赤司遺跡は天山（標高1046.2ｍ）から岩蔵谷を流下する祇園川の左岸に広がる扇状地上の水田地帯（標高約12ｍ）に所在しており、分布域の南側に位置している導水管埋設のため掘削を受ける道路敷が調査対象となった。

調査の結果、弥生時代から古墳時代の溝、中世から近世の溝、中世の井戸・柱穴等を検出した。調査区東側を南北に走るＳＤ001は弥生時代前期の溝と考えられ、前期の甕形土器、中期初頭の甕形土器・壺形土器、土製紡錘車等が出土した。

ＳＤ003～ＳＤ014の中世の溝からは、土師器の椀・皿、瓦器椀、石鍋、土鍋、湯釜等を中心に遺物が出土したが、特にＳＤ010とＳＤ005からは輸入陶磁器が出土した。またＳＥ015より壺形のミニチュア土器、ＳＥ016からは土師器の皿・椀、黒色土器等が出土した。

調査区周辺は宇佐宮領荘園「赤自庄」の中心部と推定されているが、今回は５ｍ×100ｍという東西に細長い調査区の設定であったため、遺跡の性格を把握するまでには至らなかった。しかし中世の溝は集落もしくは屋敷の区画溝にあたると思われ、三日月町における中世史の解明のうえで貴重な資料となった。



図版７　赤司遺跡

１．作業風景（東から）　２．ＳＤ001（南から）　３．ＳＤ001内遺物出土状況

４．SD004・SD011・SD005（東から）　５．ＳＫ017　６．ＳＥ016遺物出土状況

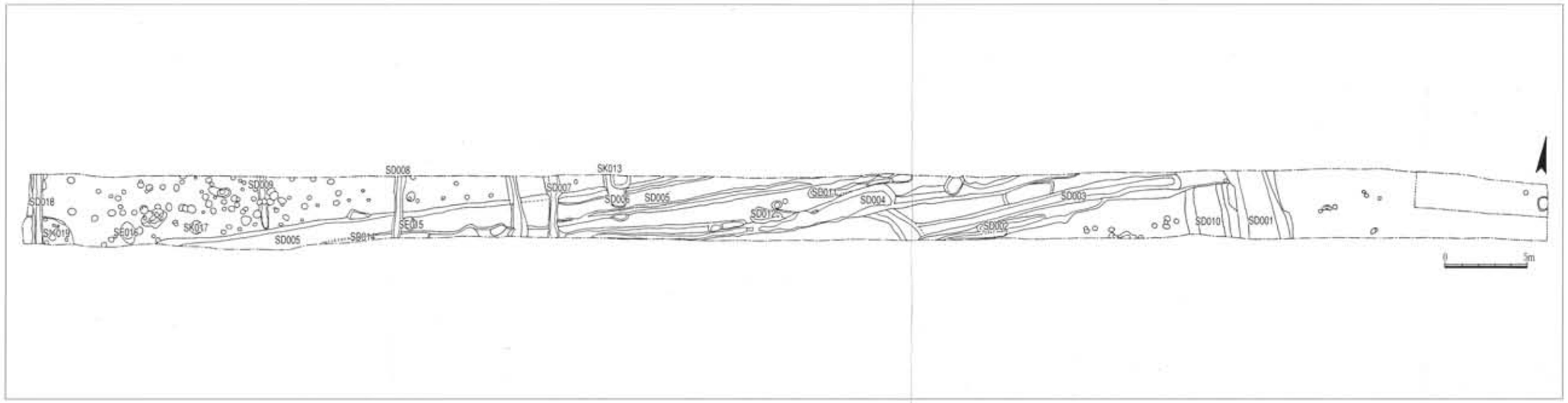
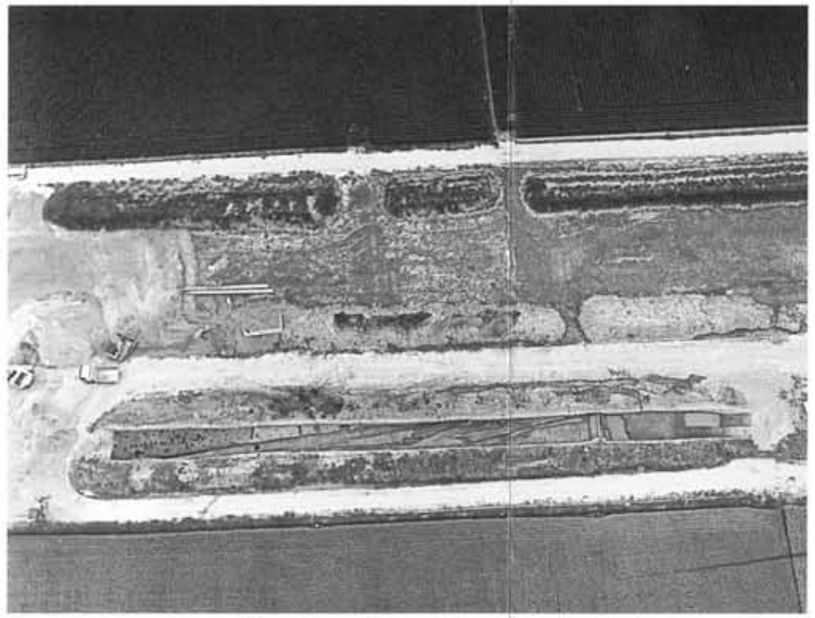


図32　赤司遺跡遺構配置図

1．調査区全景（東から）



2．調査区全景

3．ＳＤ005（西から）

8．八ッ溝遺跡（略号：ＹＴＭ）

遺跡の所在地

多久市多久町字浦町他

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成９年11月～平成10年３月

調査面積

2,500㎡

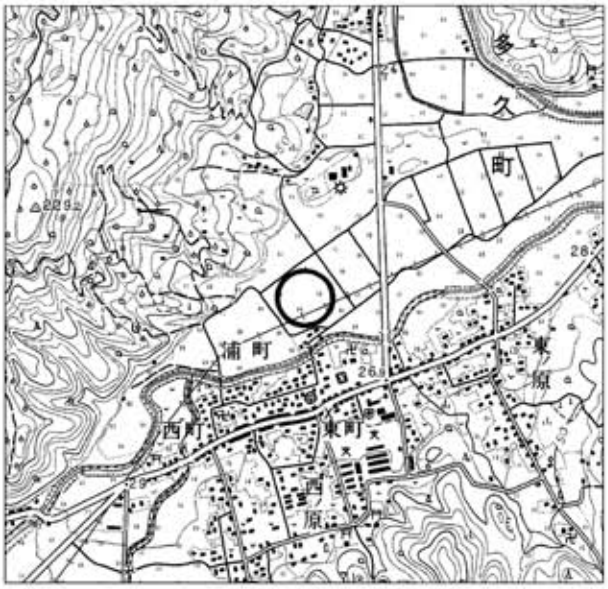


図33　八ッ溝遺跡位置図（1:25,000）

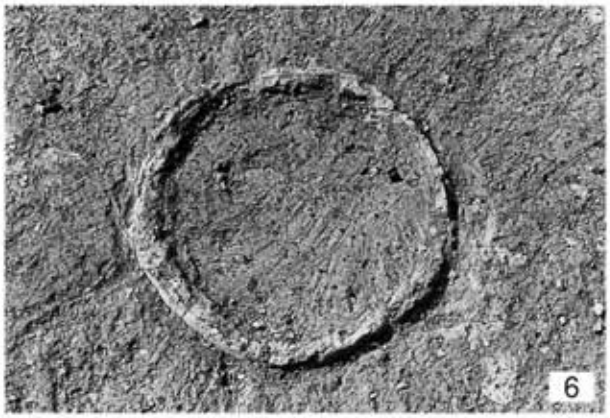
遺跡の概要

八ッ溝遺跡は、牛津川上流の河川沿いに立地し、九州横断自動車道開発に伴い発掘調査された撰分遺跡の隣接地にある。調査は便宜上４区分（Ⅰ区～Ⅳ区）にわけて実施した。

Ⅰ区では、古墳時代の溝や土壙が検出され、遺物は４～５世紀の時期と思われる土師器や須恵器が出土した。また、この調査区については遺構覆土と基本土層の自然科学分析を行い、稲のプラントオパールやソバの花粉を検出した。また、溝が埋まる過程で照葉樹林の減少と畑作の開始がおこっていることなども判明した。

Ⅱ区・Ⅲ区では、小穴や溝が検出されたが、遺構密度が低く遺物も少なかった。

Ⅳ区の自然流路跡と思われる溝状の窪みから、縄文時代後期の遺物が約1,000点出土した。土器はほとんどが細片で接合できないが、ほぼ完形に近く復元できた固体（浅鉢）もある。石器は石鏃、打製石斧等が出土した。遺構は埋瓶２基が検出された。



図版９　八ッ溝遺跡

１．Ⅰ区溝遺物出土状況　　２．Ⅰ区土器出土状況　　３．Ⅰ区土壙

４．Ⅵ区発掘調査風景　　５．Ⅵ区浅鉢出土状況　　６．Ⅵ区埋甕出土状況

9．馬場南遺跡（略号：ＢＢＳ）

遺跡の所在地

杵島郡江北町大字上小田字馬場南

調査主体者

江北町教育委員会

調査期間

平成９年５月22日～平成10年３月25日

調査面積

5,800㎡

図34　馬場南遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

馬場南遺跡は、聖岳から南東に派生した支脈が標高を減じ、丘陵地形となって沖積地へと移行する地形の変換点に位置している。丘陵と丘陵の間には小規模な河川が流れており、谷を土砂で埋めた扇状地を形成している。遺跡の北側には、弥生時代と中世～近世の集落跡である馬場北遺跡・焼石遺跡があり、北西の乙宮山の頂部には中世末から近世初頭の単郭で小規模な城郭が遺存している。この北麓には、この城郭と同時期の掘建柱建物等を検出した山中遺跡が存在する。

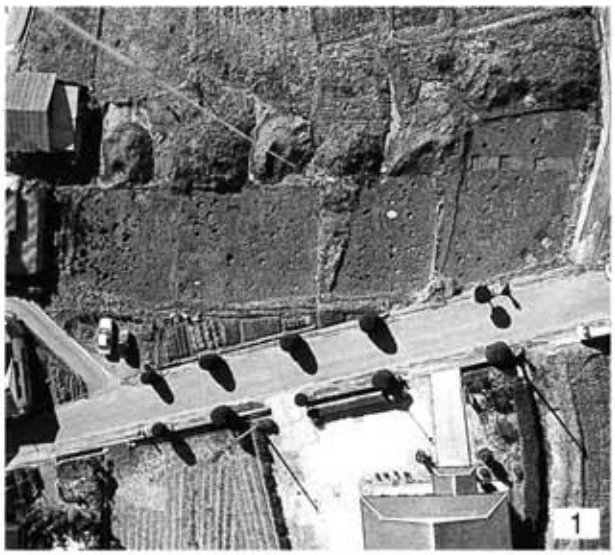
本遺跡の調査では、弥生時代と中世～近世にかけての集落跡で特に弥生時代中期と中世末～近世初頭の遺構を多く検出した。主な遺構は、土壙50基・溝７条・掘立柱建物７棟・井戸３基・小穴多数を検出した。土壙は、弥生時代中期と中世末～近世初頭のものが主体をなす。溝は中世末～近世初頭に属するもので、３Ａ・３Ｂ区にまたがって検出されたものがあったが、未調査区及び後世の耕地整理のために規模の把握は困難であった。掘立柱建物は中世末から近世初頭のもので、６Ａ区では重複して検出されたことから、建替え又は拡張が推測される。井戸からは、小破片が数点出土したにすぎなかったため時期の把握は困難であるが、同調査区の出土遺物や遺構分布状況から近世初頭に属するものと推測される。

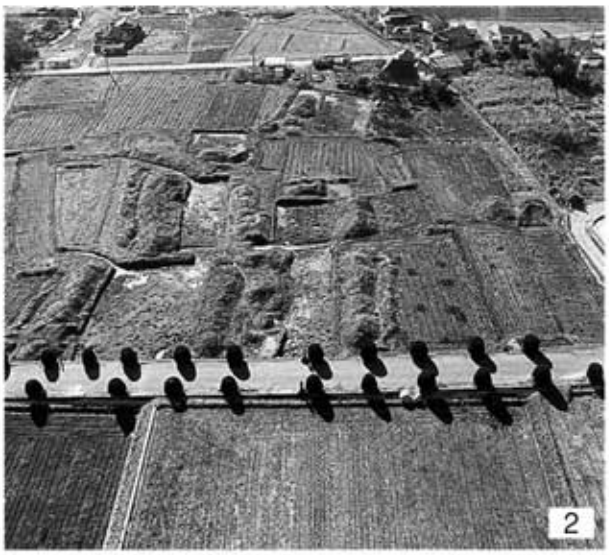
遺物は、弥生時代の中期を主体とした甕・壺・高坏・器台・砥石等が出土した。中世～近世のものでは、中世末～近世初頭を主体とした土師器皿・須恵器・瓦器・染付磁器・白磁・青磁等が出土した。また、６Ａ区では、完形の龍泉窯系の青磁椀を表面採集した。

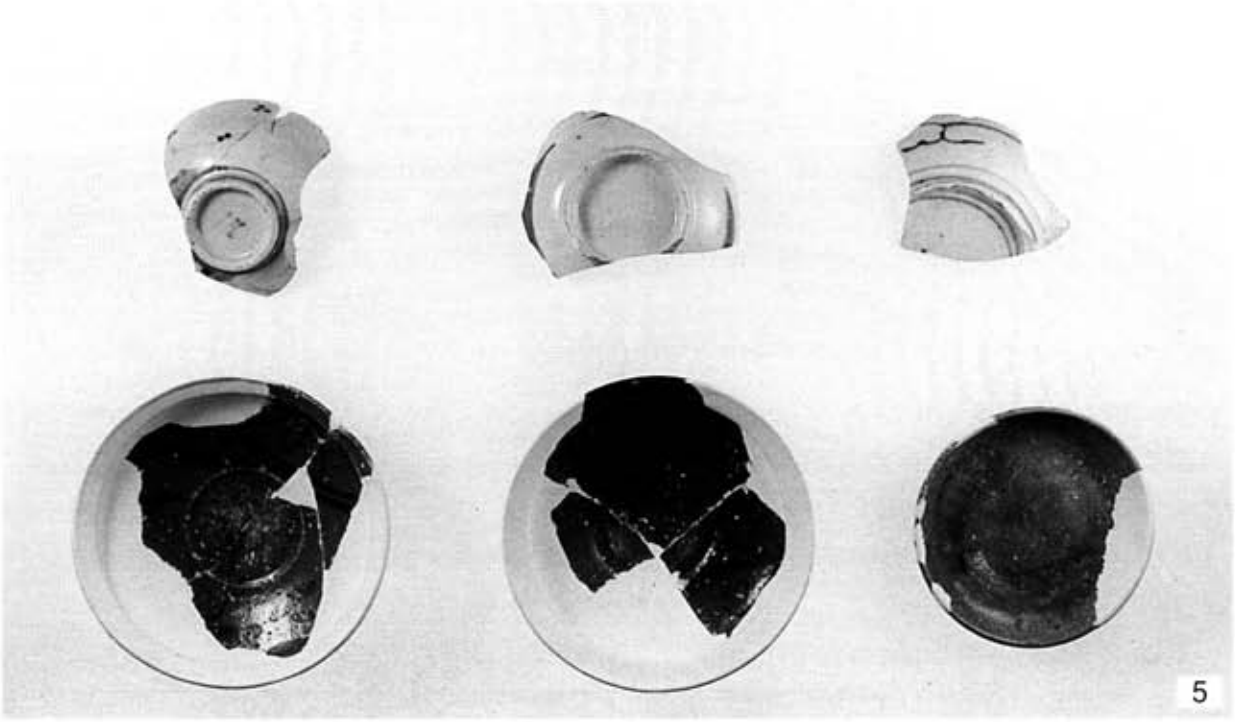
馬場南遺跡を含む周辺の遺跡群は、ほぼ同時期に展開したひとつの集落と考えられ、前年度調査の山中遺跡背後の乙宮山に築かれた城郭と有機的に関連するものと考えられる。

乙宮山の城郭は、単郭構造を基本とするもので、元々単純な構造であったものを後になって大幅に改修したものと考えられ、改修の時期は、完成された豊織系の虎口構造の採用から天正後半から慶長の頃と考えられる。この改修がなされた時期は、馬場南遺跡等の遺跡群の集落が著しく展開した頃に相当する。

この天正後半から慶長にかけての大規模な普請や先進的な構造・技術を伴う改修は在来の小規模な勢力とは考えにくく、ほぼ同時期に著しい展開を示す城下の集落と合わせて、天正３年に小田に移された馬場氏によるものとするのが自然であろう。







図版10　馬場南遺跡
1．遺跡東側遠景（北から）　2．遺跡西側遠景（北から）　3．作業風景（北から）
4．出土青磁椀　5．出土遺物

10. 団子前遺跡（略号：ＤＡＧ）

遺跡の所在地

杵島郡江北町大字上小田字団子前

調査主体者

江北町教育委員会

調査期間

平成９年10月30日～平成９年11月27日

調査面積

100㎡

図35　団子前遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

江北町の地形は、南部の沖積平野と北部の山地部とに大別される。南部は、白石平野の北端に位置する起伏の少ない平坦地で、北部は山麓部にいくつかの谷底平野や扇状地が形成されており、緩斜面地が多く存在する。

町内における表層地質は、南部の低地部においては完新世の泥質未固形堆積物である粘土層が、北部の山地部では砂岩と泥岩が互層をなす新生代古第三紀層のうえに玄武岩を主とする新第三紀以降の火山性岩石が載る。町内における土壌は、南部の低地部では細粒グライ土壌が、北部の山地部では暗赤色土壌、黄色土壌、黄褐色系褐色森帯土壌、山麓部の谷底平野には細粒灰色低地土壌、上小田地区の扇状地では褐色低地土壌が分布している。

団子前遺跡は、聖岳から派生した北部山地の丘陵地形の鞍部に位置し、現在はみかん園になっている。平成８年度の確認調査で縄文晩期の土器が出土し、また大量の黒曜石を表面採集したことから、平成９年度に本調査を実施した。

調査は、グリッドによる掘り下げを行ったが、遺構やユニット等は確認できなかった。出土遺物は細片で時代考証は難しいが、縄文晩期と推測される土器や弥生時代から近世にかけてのものがあった。しかし、みかん園造成の際にかなり根穴やスプリンクラーにより攪乱を受けていた。また、黒曜石製の石鏃を表面採集した。

今回の調査では、確認調査の結果や縄文集落である西百合野遺跡等との位置的環境から縄文集落の確認が期待されたが、良い成果はあげられなかった。

図版11　団子前遺跡

1．調査区近景（西から）　2．遺物出土状況　3．遺物出土状況
4．黒曜石出土状況　5．遺物出土状況　6．遺物出土状況

11．樽浦遺跡（略号：ＴＡＲ）

遺跡の所在地

伊万里市木須町字樽浦

調査主体者

伊万里市教育委員会

調査期間

平成９年７月～平成９年９月

調査面積

360㎡

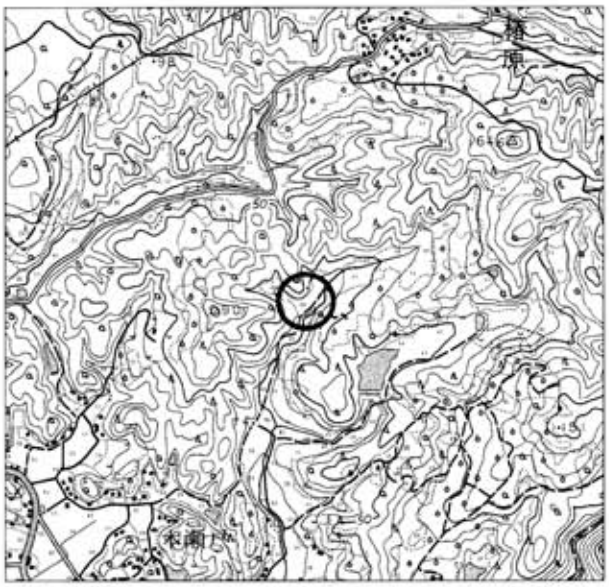


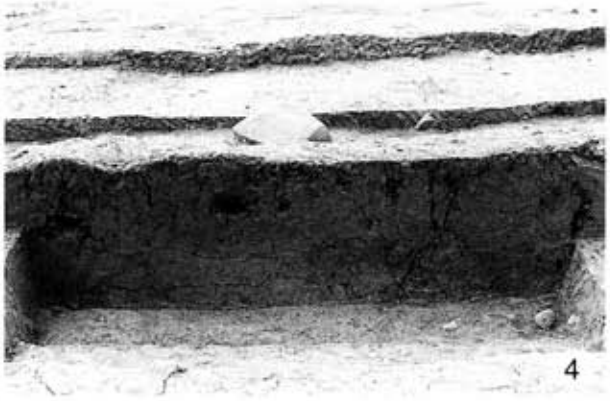
図36　樽浦遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

樽浦遺跡は、伊万里市木須町字樽浦に所在する。伊万里市街から北西方向約４㎞のところにあり、北から南に流れている矢竹川によって形成された谷の西側に位置している。立地条件としては北西から南東に伸びる尾根の緩やかな斜面の先端にあり、眼前は北東方向から東側にかけて西南方向まで大きく開けている。現況は畑で、谷周辺部は水田となっている。その他は山林と竹林である。標高は約32ｍで、矢竹川との比高差は約６ｍである。

発掘調査は道路として開発される部分のみを実施し、道路計画の道路中央線を基準として２ｍ×２ｍのグリッドを設定した。調査方法は包含層の直上まで重機によって排土し、以下は人力によって包含層の上面を検出し、グリッド設定後、掘り下げを実施した。出土遺物については光波測量機によるドット取り上げを行った。掘り下げ開始後、予想していたよりも包含層内の遺物の出土点数が多いことから、ドット取り上げとグリッドごとの取り上げを併用した。出土状況の全体的な傾向としては、調査範囲の最高位を中心域としてほぼ同心円状に広がりを見せている。特に一番の集中域である範囲は円形をしており、直径は約2.3ｍである。その周辺には帯状に集中域が見られる。また調査範囲内には別の集中域が見られる。土層の基本層序は３層である。遺物が出土する層は基本的に１層と２層の上層である。出土傾向としては、遺物の出土点数が少ない場所についてはほぼ１層と２層の上層からの出土であるが、遺物集中域では２層からも出土している。３層からは遺物の出土はほとんどなく、１、２層は３層の風化土と思われる。石器の総出土点数は、フレイク、チップなどを含めて11,584点である。石材は大部分が黒曜石であり、サヌカイトも使用されている。ツール類はスクレイパーが約半数を占め、石鏃は32.5%を占めている。石鏃は多くのバリエーションが見られるが、特に局部磨製石鏃が多量に出土している。逆にドリル、石皿などが見られない。特に石皿は使用したと思われる破片のみが出土しただけで、完形品は出土していない。採集していた食料の違いによる可能性も考えられる。伊万里市で初めて異形石器（トロトロ石器）（全長6.70㎝・最大幅3.85㎝・厚さ0.95㎝・重量20.0ｇ）が出土した。青白色のチャート製である。剥離痕跡の陵のつぶれなどは見られず、研磨の痕跡は見られない。土器は21点出土しているが、遺存状況は悪く、その大半は小破片である。紋様は楕円押型文と条痕文と思われる。他の異形局部磨製石器の出土例を見ても押型文土器後半期であり、当遺跡も同様であると思われる。

今回の調査から、樽浦遺跡は縄文時代早期後半の遺跡と考えられる。伊万里市内においても縄文時代早期の遺跡調査例は少なく、白蛇山岩陰遺跡しか実施していない。特に今回の発掘調査によって異形石器が出土したことは、今後縄文時代の祭祀や交易を考える上で貴重な資料を得ることができた。



図版12　樽浦遺跡

1．遺跡近景（南東から）　2．包含層検出面（北東から）　3．完掘状況（東から）
4．土層断面（北東から）　5．土器出土状況（南西から）　6．調査風景（西から）

12. 竹木場丹ノ木遺跡（略号：ＴＴＫ）

遺跡の所在地

唐津市竹木場字丹ノ木

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成９年７月２日～８月30日

調査面積

500㎡

図37　竹木場丹ノ木遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

竹木場丹ノ木遺跡は、唐津市の西側に広がる標高約200ｍ前後の通称上場台地（東松浦玄武岩台地）の南部に位置する。唐津市を南北に流れる松浦川支流の田中川の最上流で東松浦半島を開析する小河川の最奥部に延び出す丘陵上に立地する。

本遺跡の周辺には、西南方向に流れ出す田中川流域に竹木場向ノ原遺跡、竹木場荒谷遺跡、唐ノ川高峰遺跡、唐ノ川丸尾遺跡、唐ノ川西ノ吹遺跡などが分布している。また、南東方向の台地上には、竹木場前田遺跡、杉谷溜Ⅰ・Ⅱ遺跡、菅牟田西山遺跡、菅牟田黒龍遺跡、菅牟田荒谷遺跡、山田団六遺跡などが分布している。北には馬場野遺跡、馬場野ゴルフ場遺跡が所在する。

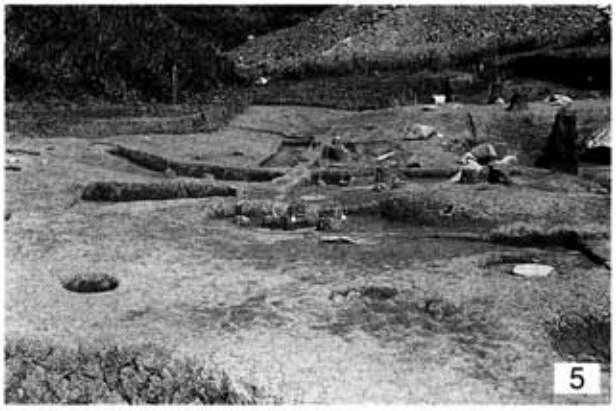
調査は、面工事により削平を受ける500㎡で、谷部にあたる現水田を挟む２地区（Ａ,Ｂ地区）について実施した。

Ａ地区（400㎡）の調査では、開析された谷部に延び出すわずかな丘陵上に、大小３つのほぼ平坦な面を検出した。調査区中央部の最も広い平坦面の下部には、残存状態は良好ではないが比較的大型の炭化物が出土しており、住居跡の可能性も考えられる。東側の丘陵上部の平坦面では、炭化物を含む土壙状の遺構を検出した。調査区の中央部より西側で住居跡に伴うものか柱穴状の遺構が検出された。調査区及びその周辺は大型の礫が多く見られるが、遺構に伴うものではなく自然礫の流れ込みと思われる。調査区からは、旧石器時代から弥生時代にかけての遺物が出土している。

Ｂ地区（100㎡）はＡ地区より約70ｍ南西に位置し、東側の谷部にかけて堆積しているが、Ｂ地区全体に薄い堆積となっている。遺構は検出されず、Ｂ地区内外に広がる大小の礫を近年の耕地整理の時に採取したものか、その痕跡が見られる。遺物の出土は少ない。

今回の調査では、現段階で検出された遺構の性格や時期等は明確ではない。出土遺物数はＡ，Ｂ地区ともに全体的に見て少ない。旧石器時代の遺物ではナイフ形石器等が出土している。縄文時代の遺物には、土器の出土はほとんどなく、石器類で早期と考えられる石鏃がＡ地区の中央部付近から比較的まとまった数が出土している。他に石核なども出土している。弥生時代の遺物は、中期の土器片が比較的小範囲で出土しており、同一個体の可能性もある。

これらの調査結果をもとに、不明遺構の時期や性格を解明する必要がある。



図版13　竹木場丹ノ木遺跡

1．遺跡全景（南から）　2．遺物出土状況　3．発掘調査風景

4．A地区全景（東から）　5．A地区遺物出土状況（西から）　6．B地区全景（西から）

13. 納所笹山遺跡（略号：ＳＳＹ）

遺跡の所在地

東松浦郡肥前町大字納所字笹山

調査主体者

肥前町教育委員会

調査期間

平成９年11月～12月

調査面積

26㎡

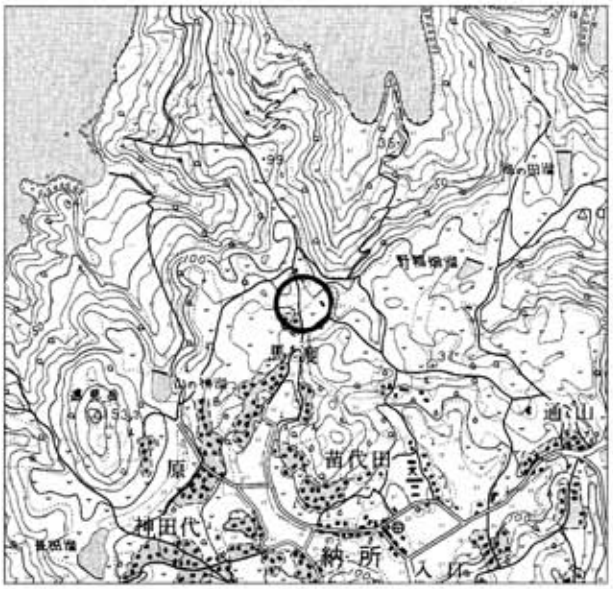


図38　納所笹山遺跡位置図（1:25,000）

遺跡の概要

納所笹山遺跡は、肥前町の北部、標高約110ｍの丘陵の尾根部に位置し、天候に恵まれたときは壱岐、対馬など玄海の島々を望むことができる。現在、この付近は畑地として利用されており、周辺には荒崎遺跡、太田遺跡など旧石器～縄文時代の遺跡が点在している。

調査はＡ・Ｂの調査区を設けすべて手掘りで行い、遺物は調査区ごとに出土地点、絶対高を記録して取り上げた。

今回の調査では、黒曜石製の剥片・砕片８点が出土したが、調査面積も狭く、遺跡の詳細については不明である。しかし、確認調査では彫器が１点出土しており、付近からは石鏃を表面採集していることなどから、旧石器～縄文時代の遺跡が広範囲に存在することは明らかであり、今後の調査に期待したい。

図版.14　納所笹山遺跡
1．遺跡全景（南から）
2．土層（西から）
3．遺物出土状況（北から）

Ⅳ．まとめ

平成10年度の農業基盤整備事業等にかかる文化財確認調査を、佐賀東部地区の鳥栖市・中原町の１市１町の２地区、佐賀西部地区では佐賀市・大和町・三日月町・富士町の１市３町の８地区、佐賀南部地区においては江北町の１地区のみ、佐賀北部地区では伊万里市・浜玉町・厳木町・西有田町の１市３町の６地区、佐賀上場地区では唐津市・肥前町の１市１町の４地区で実施した。

また、平成８年度の確認調査結果の協議に基づき実施した発掘調査（本調査）は、上峰町・富士町・佐賀市・三日月町・多久市・江北町・伊万里市・唐津市・肥前町の13遺跡である。以下、平成９年度の確認調査について、地区毎にまとめてみたい。

（１）佐賀東部地区

鳥栖市、中原町ともに九千部山横断線地区で遺跡が確認された。

鳥栖市分については、勝尾城本丸跡と館跡を結ぶ登城道の両側一帯が対象地となったため確認調査を実施した。その結果、対象地内の大手道を中心とする斜面に点在する小規模な平場から、石組みの竈跡や帯状の焼け面の遺構や染付け皿・備前陶器片・瓦質の鉢・白磁の皿等の遺物が検出され、これらの地点が臨時的（戦闘時に機能する）な曲輪群であること、しかも石垣などをもつ本格的出曲輪から連続し、館から本丸へと至る曲輪群の一部を構成するものであることがわかった。中原町分では、平成12年度工区分までを対象に確認調査を実施した。調査地は所々に平坦部をもつ尾根が中心で、古代及び中世の遺跡が確認された。検出された遺構は、柱穴、土壙、土墨などで、遺物は須恵器や土師器などである。なかでも、石で区画された施設内に、内面に煤が付着した灯明皿として使われたと考えられる完形の土器が置かれている状況が確認され、調査地が山中であることから通常の集落にある施設とは考えにくく、この遺跡がなんらかの祭祀に関わる遺跡である可能性が高いことを示唆している。文献に残らないこのような山中での祭祀行為が確認されたことは興味深い。

（２）佐賀西部地区

佐賀市：鍋島地区・金立東部地区・兵庫北部地区、三日月町：佐賀西部導水路の４地区で遺跡の存在を確認した。

鍋島地区では、井戸・土壙・小穴等及び土師器・瓦器・陶磁器が検出され、平安～室町時代にかけての集落跡であることが明らかとなり、「江里遺跡」として周知化した。金立東部地区では、弥生時代の壺および甕の破片を伴う溝１条と、古代～中世と思われる土師器皿片を確認し、隣接する弥生・古墳時代・中世の遺跡である上九郎遺跡の範囲を拡大することで周知化した。兵庫北部地区では、溝・土壙・柱穴等及び弥生土器・土師器・青磁・陶器・染付けなどの破片と鉄滓が検出され、地元に「屋敷」の伝承があることから、中世～近世の環濠集落の中心部であった可能性があることがわかった。三日月町の佐賀西部導水事業に伴う確認調査では、土壙・柱穴・小穴・遺物包含層等及び弥生土器片（中期）・黒曜石剥片・木杭・白磁碗Ⅳ類底部等が検出され、土生遺跡国指定地を中心とする弥生時代の集落の町内における範囲の広がりを確認した。

（３）佐賀南部地区

佐賀南部地区では、若干の遺物が出土したのみで遺跡は確認されなかった。

（4）佐賀北部地区

浜玉町：浜玉地区（大岩工区・上川原工区）の2地区で遺跡が確認された。

大岩工区では溝状の遺構から弥生時代後期～古墳時代前期の壷・甕の口縁部の破片が出土した。上川原工区では、中世の遺物包含層を検出した。なお、嶽木町では今年度工事予定地内で発見した近代の炭窯を対象に調査を実施した。

（5）佐賀上場地区

唐津市：上場Ⅱ期地区（竹木場地区・菅牟田地区）、唐津東部地区（柏崎地区）、肥前町：上場Ⅲ期地区（寺浦支線19号）の4地区で遺跡が確認された。

竹木場地区では、前年度に旧石器・縄文時代の遺物が確認された黄褐色土層から、安山岩の剥片等を検出し、黒曜石の表面採集もあったことから、良好な包含層が遺存していると考えられ、竹木場丹ノ木遺跡として周知化した。菅牟田地区では、柱穴状の遺構と遺物包含層を検出し、同じ黄褐色土層の遺物包含層から彫器や剥片等の旧石器時代から縄文時代にかけての石器が出土した。柏崎地区では、柱穴状の遺構と遺物包含層及び、弥生土器片・須恵器・甑の把手・土師皿等を検出したことから、弥生時代～古墳時代の集落であることが確認された。寺浦支線19号地区では、ナイフ形石器・細石刃・剥片等の遺物が出土した旧石器～縄文時代の包含層が確認され、八折遺跡として周知化した。

以上、佐賀県内において平成9年度に実施された農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の確認調査に関する概要を付記したが、中山間地域農村整備など、事業内容の多様化に伴い確認される遺跡の内容にも多様化の傾向が見られ、より綿密な調整が必要となってきている。平成10年度の農業基盤整備事業等に係る文化財確認調査及び調査結果に基づく協議に際しては、農林担当部局、土地改良区、市町村教育委員会の協力により、順調に運ぶことができた。関係者各位に感謝したい。

Ⅴ．資料

1．農林業基盤整備事業等に係る文化財調査の進め方

①９月上旬

翌（々）年度事業計画書の提出

農林部から文化財課へ翌（々）年度
工事施工計画図等の提出（協議）

②９月中旬～10月上旬

市町村教委と事前打ち合わせ及び現地踏査等

市町村教委と図面をもとに確認調査箇所
について打ち合わせ

③10月16日

第１回協議

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事務所
農村計画課・農村整備課・森林整備課
林政課・流通園芸課・各農林事務所
市町村農林担当課・市町村教育委員会
文化財課と確認調査についての打ち合わせ

④10月下旬～12月上旬

文化財確認調査実施

県費補助事業計画書の提出
ヒアリング

⑤11月下旬～12月上旬

個別協議

文化財所在地区の農林業基盤
整備事業等について協議
（数回）

⑥12月下旬

第２回協議

翌年度発掘調査箇所（面積）
の決定、発掘調査の時期調整

⑦新年度

発掘調査

国庫補助事業
内示（４月）

◎国庫補助事業計画書提出（１２月）
◎文化庁ヒアリング（１～２月）

2．確認調査実施要領（平成９年度）

①　確認調査

（1）準備

1．発掘承諾書（別添１）

文化財課へ１遺跡１通。工事担当課窓口。発掘承諾については、承諾書のみではなく、調査対象地権者への、調査に対する承認を充分得ておく。

2．現地確認および確認調査計画

調査員・工事担当課立会のうえ、工事範囲（調査範囲）・掘削機搬入路・その他を検討し、確認調査計画書（別添２）および関係書類を文化財課に提出。

3．掘削機・作業員の手配等

人数の目安は、手掘りの場合　　１５人／１日

掘削機使用の場合　　３人／１日

※作業条件：作業時間　8：30～17：15　日当 6,200円

※雇用予定発掘作業員の名簿（別添４）を作成し、事前に文化財課に提出。

4．その他用意するもの

小型カメラ・野帳・移植ゴテ・尺・工事計画図面・文化財課指定の日誌（別添５）・文化財課が用意するフィルム（35ミリ・カラーフィルム24枚撮り）等の調査記録類。

なお、作業員には各自シャベルを用意してもらうこと。

（2）調査

1．原則として、20m間隔で基盤目状に試掘坑を設定。

2．試掘坑は、２m×２mを基準とする。

・耕作土と深土を区別する。

・土層、遺構面までの深さ、遺構・遺物の性格及び遺存状況等を記録する。

・埋め戻しは、深土を先に戻して十分転圧した後、耕作土を戻して復旧する。

3．耕作物・道・水路等の取扱いに注意し、また工事担当課が必ず立ち会うこと。

調査においては、安全に充分心掛けること。

4．掘削機使用及び発掘作業員の作業状況を必ず複数枚撮影すること。

②　調査記録の整理

1．日誌　　・調査地区、試掘数、その他特筆すべきことを記録する。

・作業員数（例：7.5人）、掘削機台数（例：1.5台）

・文化財課へは、印のある原紙（別添５）を提出すること。

2．調査結果表（別添６）は調査区毎にまとめる。

3．試掘坑土層図（別添７）、遺構が検出された場合は平面略図（別添８）を作成する。

4．図面　　試掘坑の位置・番号・遺構面までの深さ（例：－45cm）・遺跡の範囲等を配布した工事図面に記入する。

報 告 書 抄 録

ふりがな	さがけんのうぎょうきばんせいびじぎょうにかかるぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書17
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第141集
集者名	古川直樹
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840－8570　佐賀県佐賀市城内1－1－59　TEL. 0952(24)2111
発行年月日	1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査対象面積 （確認調査） ha	調査原因
佐賀県 農業基盤 整備事業 地区内 遺跡	さがけんない					19970401 ～ 19980331	344.1	農林業基盤 整備事業等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佐賀県 農業基盤 整備事業 地区内 遺跡	集落 墳墓群 古墳 ほか	旧石器時代 ～ 近世	集落遺構 石棺墓 古墳 包含層 ほか	石器・土器 陶磁器 ほか	確認調査報告のほかに、平成9年度に農業基盤整備事業に伴い実施された13遺跡の調査概要を所収

佐賀県文化財調査報告書第141集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書17

平成11年３月31日発行

編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内一丁目１-59
ＴＥＬ　0952（24）2111
印　　刷　大成写真製版所
佐賀市巨勢町大字牛島字一本松353
ＴＥＬ　0952（23）1846